長野市の埋蔵文化財第 165 集

松代城下町跡（4）・代官町窯跡

－松代町代官町分譲地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2022 年 3 月

長野市教育委員会

序

彩り豊かな山並みを仰ぎ、千曲川・犀川の大河に抱かれた長野市では、悠久の歴史の中で、多様な人々の生活が営まれてきました。各地に残る伝統行事や歴史的建造物などの文化財は、郷土の成り立ちや文化を理解する上で欠くことのできないものです。中でも土地に埋蔵されている遺跡やそこに存在する遺構・遺物は、私たちの祖先の知恵と文化の集積であるとともに、当時の人々の暮らしぶりを現在に伝えてくれる貴重な財産です。

ここに長野市の埋蔵文化財第165集として刊行いたします本書は、宅地分譲地造成工事に伴って実施した、松代城下町跡及び代官町窯跡に関する調査報告書であります。

発掘調査では、近世後期から近代にかけての土坑等及び幕末から近代の陶磁器窯跡を発見したほか、松代焼を含む陶磁器等が出土しました。

この調査成果が地域の歴史解明の一助として、そして文化財保護に広くご活用いただければ幸いであります。

最後に、埋蔵文化財保護に対する深いご理解のもと、この調査にご協力いただいた事業者並びに地域の皆様、また、発掘作業に携わっていただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。

令和4年3月

長野市教育委員会
教育長　丸山　陽一

例　言　・　凡　例

1　本書は、令和元年度に、分譲地造成工事に伴い、記録保存を目的に実施された埋蔵文化財緊急発掘調査の報告書である。

2　発掘調査地は、長野県長野市松代町松代字代官町 1467 番 1 外に所在し、松代城下町跡内に位置している。

3　発掘調査は、事業主体者である資峰有限会社からの委託により、長野市長加藤久雄が受託し、長野市教育委員会が実施した。なお、調査は長野市埋蔵文化財センターが担当した。

4　埋蔵文化財の保護対象範囲は、開発事業面積 2,956.66㎡全域である。このうち造成地内の道路予定部分である約 574㎡を発掘調査実施対象範囲とし、実質調査面積は 598㎡である。

5　現地における発掘調査は令和元年７月 16 日から令和元年９月 20 日まで行った。

6　今回の発掘調査により、代官町窯跡の位置が特定できたことから、令和４年３月８日付で埋蔵文化財包蔵地地図及び一覧表（遺跡台帳）に新規登録した。

7　発掘調査から報告書の作成に至るまで、飯島の指導の下、田中が担当した。執筆は飯島哲也－第１章第１節・第２節、田中暁穂－上記以外、のように分担した。

8　調査で得られた諸資料は、長野市埋蔵文化財センターで保管している。遺跡略号は「ＭＪＳＨ」である。

9　発掘調査の実施に際し、委託者である資峰有限会社および土地所有者におかれては、埋蔵文化財に対して深いご理解を頂き、多大なご協力を賜った。

10　基準点測量および遺構測量は、平面直角座標系(国家座標)の第Ⅷ系(東経 138°30′00″、北緯 36°00′00″)の座標値（日本測地系 2011）と日本水準原点の標高を基準とし、株式会社写真測図研究所に委託した。

11　掲載した地図は上が真北を示す。実測図等に掲載した方位は座標北を表している。

12　掲載した図の縮尺は図ごとに記載し、個別遺構図は 1/40、遺物実測図は 1/4 を基本とした。

13　掲載した遺構写真・遺物写真の縮尺は任意である。

14　遺構番号は発掘調査で付した通し番号を基本とした。遺構の略記号は以下の通りである。

　井戸跡－ＳＥ　土坑－ＳＫ　小穴－Ｐ　性格不明遺構－ＳＸ

15　実測図において使用したトーンは各図に凡例を示した。また遺物実測図において一点鎖線は施釉範囲を表す。遺物観察表の凡例は、各表に付記した。

16　引用参考文献

角谷江津子 2016『近世京焼の考古学的研究』（株式会社雄山閣）
唐木田文三 1993『信州　松代焼』（信毎書籍印刷株式会社）
関西陶磁史研究会 2005『窯構造・窯道具からみた窯業－関西窯場の技術系譜をさぐる－研究集会資料集』
九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』
小松隆史 2002「近世信濃の窯業史研究」『金沢大学考古学紀要』26
真田宝物館 2021『令和三年真田宝物館特別展「松代焼」』
㈶瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター 2006『江戸時代のやきもの－生産と流通－』
㈶瀬戸市文化振興財団 2012『瀬戸・美濃窯の近代－生産と流通－シンポジウム資料集』
瀬戸市史編纂委員会 1998『瀬戸市史陶磁史篇』六（愛知県瀬戸市）
瀬戸市歴史民俗資料館 1987『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅵ
田口昭二 1994「美濃窯の諸様相」『瑞浪陶磁資料館研究紀要』第６号（瑞浪陶磁資料館）
畑中英二 2003『信楽焼の考古学的研究』（サンライズ出版）

目　　次

序
例　言・凡　例
目　次
第１章　調査の経緯
　第１節　調査の契機と事務経過・・・・・・・・・１
　第２節　調査体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　第３節　調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　第４節　遺跡の環境と松代諸窯・・・・・・・・・４
第２章　調査成果
　第１節　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
　第２節　遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
　第３節　総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
抄録
奥付

挿図・挿表目次

図１　調査地位置図（縮尺 1/2,500）・・・・・・・・・１
図２　遺跡の位置と周辺の遺跡
　（縮尺 1/50,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
図３　周辺調査地位置図（縮尺 1/7,500）・・・・・５
図４　遺構配置図（縮尺 1/500）・・・・・・・・・・・・７
図５　W区全体図（縮尺 1/200）・・・・・・・・・・・・８
図６　W区１号土坑実測図（縮尺 1/40）・・・・・・８
図７　W区２号土坑実測図（縮尺 1/40）・・・・・・８
図８　W区３・４・５号土坑実測図
　（縮尺 1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
図９　W区１号不明遺構実測図（縮尺 1/80）・・・８
図 10　E区全体図（縮尺 1/200）・・・・・・・・・・・・９
図 11　溝跡実測図（縮尺 1/40）・・・・・・・・・・・・10
図 12　２号窯跡上層実測図（縮尺 1/60）・・・・・・10
図 13　E区東部下層実測図（縮尺 1/60）・・・・・・11
図 14　２号窯跡実測図（縮尺 1/60）・・・・・・・・・12
表１　W区遺構観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
表２　掲載遺物観察表（製品）・・・・・・・・・・・・・16
表３　掲載遺物観察表（製品）・・・・・・・・・・・・・17
表４　掲載遺物観察表（製品）・・・・・・・・・・・・・18
表５　掲載遺物観察表（製品）・・・・・・・・・・・・・19
表６　掲載遺物観察表（製品）・・・・・・・・・・・・・20
表７　掲載遺物観察表（窯道具）・・・・・・・・・・・・20
表８　掲載遺物観察表（窯道具）・・・・・・・・・・・・21
表９　掲載遺物観察表（窯道具）・・・・・・・・・・・・22
表 10　掲載遺物観察表（窯道具）・・・・・・・・・・・・23
表 11　掲載遺物観察表（W区出土遺物）・・・・・・24

図版目次

図版１　青磁・瑠璃釉・磁器染付・陶器（１）
図版２　陶器（２）
図版３　陶器（３）
図版４　陶器（４）
図版５　陶器（５）
図版６　陶器（６）
図版７　素焼（１）
図版８　素焼（２）・窯道具（１）
図版９　窯道具（２）
図版 10　窯道具（３）
図版 11　窯道具（４）
図版 12　窯道具（５）
図版 13　窯道具（６）・W区出土遺物（１）
図版 14　W区出土遺物（２）
図版 15～17　写真図版

第１章　調査の経緯

第１節　調査の契機と事務経過

長野市埋蔵文化財センターあてに、本調査地に関する埋蔵文化財包蔵の有無について照会があったのは平成30年８月22日に遡る。その後、平成31年２月13日に開発事業の主体者である資峰有限会社（以下、事業主体者）より「開発行為計画協議書」が提出され、同月20日に事業主体者と現地協議を行った。その際、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地「松代城下町跡」の範囲内にあることから、埋蔵文化財の破壊が懸念されること、文化財保護法（以下、法）第93条の規定に基づく届出が必要であること、埋蔵文化財の包蔵状況確認のため試掘調査が必要であること、そして長野市伝統環境保存条例に基づく事前の届出も必要であること、等を伝達している。同月26日に事業主体者より法第93条に基づく「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書」が提出され、３月１日付で長野市教育委員会として事業主体者あてに保護措置「発掘調査」を指示している。

試掘調査は平成31年４月17日に実施し、４か所設定した試掘坑から良好な埋蔵文化財の包蔵が認められた。その後綿密な保護協議を経て、令和元年６月12日に事業主体者から「発掘調査依頼書」と「土地所有者の承諾書」が提出され、同月27日付で長野市教育委員会と事業主体者の間で「埋蔵文化財の保護に関する協定書」を締結し、同月28日付で長野市と事業主体者の間で「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を締結した。

発掘調査は令和元年７月16日から９月20日までの67日間（実質調査日数41日）実施した。その後、令和２年度に整理調査を行って発掘調査報告書を作成する予定であったが、窯跡の遺存状態が良好かつ遺物出土量が膨大であったことから、当初の予定を変更して令和３年度にも追加の整理作業を行った。そして、令和４年３月に本書を刊行し、すべての保護措置を終了した。

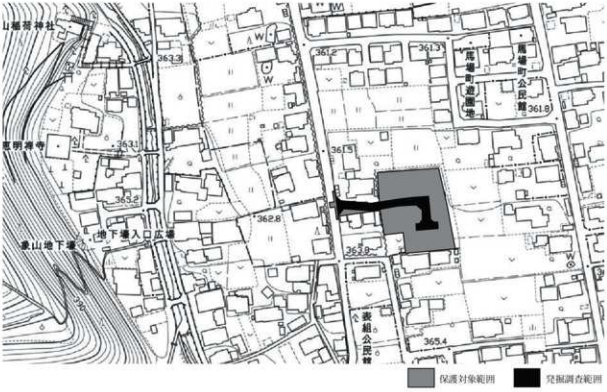


図１　調査地位置図（縮尺 1/2,500、平成24年長野市都市計画図に加筆）

第２節　調査体制

本調査は、起因となる開発事業の主体者と長野市長との委託受託契約に基づき、長野市教育委員会の直轄事業として実施し、長野市埋蔵文化財センターが担当した。その組織は以下のとおりである。

調査主体者　長野市教育委員会　教育長　近藤　守（～R2）
教育長　丸山 陽一（R3～）
統括責任者　長野市教育委員会　教育次長　竹内 裕治（～R1）
教育次長　樋口 圭一（R2～）
統括管理者　長野市教育委員会文化財課　課長　小柳 公彦（～R2）
課長　前島　卓（R3～）
調査責任者　同　文化財課埋蔵文化財センター　主幹兼所長　石田 正路（～R1）
所　長　大井 久幸（R2～）
調査担当者　同　文化財課（埋蔵文化財センター担当）　課長補佐　飯島 哲也
課長補佐　風間 栄一（R3～）
調 査 機 関　長野市埋蔵文化財センター
庶務担当　係　長　小林 晴和（～R2）
事務職員　宮本 博夫、宮崎千鶴子（～R1）、平林満美子（R2～）
調査担当　係長（学芸員）　風間 栄一（～R2）
主事（学芸員）　小林 和子
研 究 員　田中 暁穂（主任調査員）、清水 竜太、遠藤恵実子（～R2）、
篠井ちひろ、小野 涼香、社本 有弥（調査員・R1）、
井出 靖夫（R2～）、伊藤　愛（R2）、千野　浩（R3～）
発掘調査員　向山 純子
発掘補助員　後藤 大地
発掘作業員　板倉 君子、臼田 敬一、大日方 東、栗林 けい、坂口 隆政、関崎 文子、多城 恵子、
外舘 幸洋、成澤 廣志、宮本 健二、村井 義博、室賀 政貴、山岸 重子、山崎 孝之
整理調査員　青木 善子、市川ちず子、鳥羽 徳子、武藤 信子、半田純子
整理作業員　飯島 早苗、清水さゆり、西尾 千枝、待井かおる、三好 明子、宮島 恵子
測量業務委託　株式会社写真測図研究所　代表取締役　湯本 和幸
機材等提供　資峰有限会社（本体工事請負業者：株式会社 田仲建工）

発掘調査の実施に際しては、重機やコンテナハウス等の機材について、発掘調査の依頼者である資峰有限会社（本体工事請負業者：株式会社 田仲建工）から現物提供を受けた。

また、発掘調査期間中に近世窯跡の調査方法等について、愛知学院大学文学部教授 藤澤良祐 氏、富士見町井戸尻考古館館長 小松隆史 氏より、懇切丁寧なご指導を賜った。以上、明記して深甚なる謝意を表する。

第３節　調査の経過

保護対象面積2,956.66㎡のうち、道路建設範囲である574㎡を調査範囲とし、実質調査面積は598㎡であった。発掘調査は令和元年７月16日（火）から開始した。調査区内を流れる水路（泉水路）を境として調査区を東西に二分し、西のW区の調査から着手した。７月16日、水路に接する池について撮影・測量を行った。17日（水）、プレハブ・トイレなど器材が搬入され、W区で重機による表土掘削を行った。18日（木）から作業員による遺構精査を開始した。22日（月）は降雨により作業を中止した。24日（水）、遺構精査をすべて終了し、１号不明遺構・１・２号土坑を検出し、調査を開始した。26日（金）、１号不明遺構において木枠や石列を検出した。１号土坑の調査を終了し、３・４号土坑の調査に入る。29日（月）、W区の１号井戸跡を除くすべての遺構調査を終了し、30日（火）、W区全景撮影を行った後、残されていた１号井戸跡の調査と下層確認を開始した。31日（水）、遺構測量、下層確認と２号土坑の木桶の調査を行った。８月１日（木）、遺構図の結線作業を行い、W区の調査を終了した。

引き続き、８月２日（金）から東のE区の調査に入り、保護対象範囲の北側斜面において遺物の採集を行った。６・７日、窯跡の位置を確認するために調査区北・東壁にトレンチを掘削し、並行して排土から遺物を採集した。８日（木）から表土掘削を開始した。13～16日は現地での作業は休止のため、センターにおいて出土遺物の基礎整理を行った。19日（月）、１号窯跡に南北トレンチを掘削し、堆積状況の確認を行った。26日（月）、被熱して窯道具などが分布する範囲を２号窯跡とした。27日（火）、重機による表土掘削を終了した。28日（水）、溝跡の調査を開始し、以降窯跡・溝跡を並行して調査を継続する。29日（木）、２号窯跡焚口付近に南北トレンチを設定し、匣鉢側面を上面にして並べる列や木杭・板を検出した。９月２日（月）、上層の遺構測量を行う。溝跡全体に木杭と板による土留めが広がることが判明。７月３日(火)、上層の遺物出土状況撮影・遺構測量を行った。４日（水）、遺構平面図の結線、５日（木）、上層の全景撮影を行った後、下層の検出作業に入った。10日（火）には２号窯跡の遺物出土状況について測量を行い、溝跡の土層断面を撮影・実測した。12日（木）、遺構調査、調査区東壁土層堆積状況の撮影および実測を行う。17日（火）、１号窯跡を完掘し、溝跡と２号窯跡に調査が絞られる。18日（水）、空中写真撮影および測量を行った。19日（木）、愛知学院大学教授藤澤良祐氏・井戸尻考古館館長小松隆史氏が来跡し、調査に関して指導を受け、２号窯跡を完掘する作業を継続した。20日（金）、２号窯跡・溝跡を完掘し、撮影・測量を行った。器材の撤収を行い現地での作業を完了した。

ドローンによる空中写真撮影

２号窯跡の調査風景

第４節　遺跡の環境と松代諸窯

調査地は松代城下町跡の南部、代官町に所在する。真田十万石松代藩の城下町で、三方を東部山地に囲まれ、神田川・蛭川・藤沢川によって形成された複合扇状地上に位置する。扇状地は北で千曲川の氾濫原に接し、複数の河川が合流する地形は頻繁な洪水をもたらした。1742 年（寛保２）の洪水「戌の満水」後に、城の北に接していた千曲川が現在の位置に瀬替えされ、近年では神田川の放水路掘削や蛭川・藤沢川合流地点の上流移動などの河川改修が行われた。一方で豊富な地下水により水道や泉水路が張り巡らされ、城下町の生活を豊かにしてきた。現在まで松代城下町跡の範囲では近世より前の遺跡は発見されておらず、松代の原始・古代の遺跡は松代城下町跡の周縁に展開している（図２）。千曲川の自然堤防上には松原遺跡（13）や四ツ屋遺跡（10）などの大規模集落が営まれ、山裾の扇状地上には屋地遺跡（９）など古墳時代中後期の小規模な集落が立地している。近世の遺跡としては松代城下町跡の調査が挙げられる（図３）。最初の調査である木町通り地点（30）は主に街道沿いの町家の建物や水道施設、火災痕跡などが明らかにされた。八十二銀行地点（32）・松代病院地点（33）・長野信金地点（39）は上級武家地の調査で、泉水路や蔵などの建物跡、木簡などが発見された。グリンガルテン代官町地点（38）は郡代官の屋敷で、江戸後期から幕末の中級武家地の調査となった。

寺尾嘉平治窯は松代諸窯の中で最初の窯で、寛政年間に嘉平治という人物が唐津で修行し、寺尾名雲で開窯したとされているが実態は不明である。天王山窯跡（14）・寺尾名雲窯跡（21）では藩窯が開かれた。天王山窯は東条鋤崎にある天王山の南裾に普請奉行上村何右衛門の掛りで開かれ、寺尾名雲窯は東寺尾の山裾に産物御用掛りであった御用商人八田嘉右衛門により開窯した。松代藩家老鎌原桐山の随筆『朝暘館漫筆』51 巻に「寺尾の焼物師は京都より来る、丙子の年より始まり」「天王山の焼物師は江州信楽より来る、是も丙子の年より始まり」とあるため、1816 年（文化 13）に天王山窯は信楽の陶工を、寺尾名雲窯は京都の陶工をそれぞれ招いて操業したとされている。1849 年（嘉永２）に松代藩家老河原綱徳により記された随筆『園柱茶話』によれば、天王山窯は２年ほどで閉窯したとされるが、『真武外伝』不盡之巻には 1823 年（文政６）頃に天王山窯の操業について記されており、閉窯時期は定かではない。寺尾名雲窯については八田家文書等に経営の記録が残され、販路も善光寺平千曲川沿い一帯であったことがわかるが、閉窯時期は文政年間初頭としかわかっていない。天王山窯・

1 西前山古墳	8 加賀井古墳	15 牧内窯跡（平安）	22 寺尾山根窯跡（近世～近代）
2 皆神山北麓古墳群	9 屋地遺跡（弥生～中世）	16 池の平窯跡（平安）	23 荒神町窯跡（近世～近代）
3 菅間王塚古墳	10 四ツ屋遺跡（弥生～中世）	17 滝本窯跡（平安）	24 代官町窯跡（近世～近代）
4 竹原狼塚古墳	11 宮村遺跡（平安）	18 寺尾城跡（中世）	25 原窯跡（近代）
5 牧内古墳群	12 松代城北遺跡（古墳～平安）	19 尼飾城跡（中世）	26 松代城下町跡（近世～近代）
6 天王山古墳群	13 松原遺跡（縄文～中世）	20 松代城跡（近世）	
7 長礼山古墳群	14 天王山窯跡（平安・近世）	21 寺尾名雲窯跡（近世）	

図２　遺跡の位置と周辺の遺跡（縮尺 1/50,000、平成 24 年長野市都市計画図に加筆）

寺尾名雲窯に次いで開かれたのは荒神町窯（23）で、『真武外伝』や『園柱茶話』によれば、1823年に中島三右衛門が掛りとなって元船会所裏に築かれたと記され、明治15年頃まで続いたといわれる。荒神町窯も寺尾名雲窯同様、八田家文書に窯運営に関する帳簿類が残されており、9室の登窯、素焼窯各1基があった。代官町窯跡（24・37）は調査地に所在する。1839年（天保10）に松代藩士岩下革により開かれたとされ、1845年（弘化2）に須坂藩に招聘された陶工吉向行阿の弟子で瀬戸の陶工である加藤房造が代官町窯を継承したとされる。1933年（昭和8）まで操業した。原窯跡（25）は明治末期頃、原儀一という人物が開いた窯といわれる。火消壺や土管など素焼製品を焼成し、昭和初期からは陶器の生産も行ったといわれるが、まもなく閉窯したとされている。

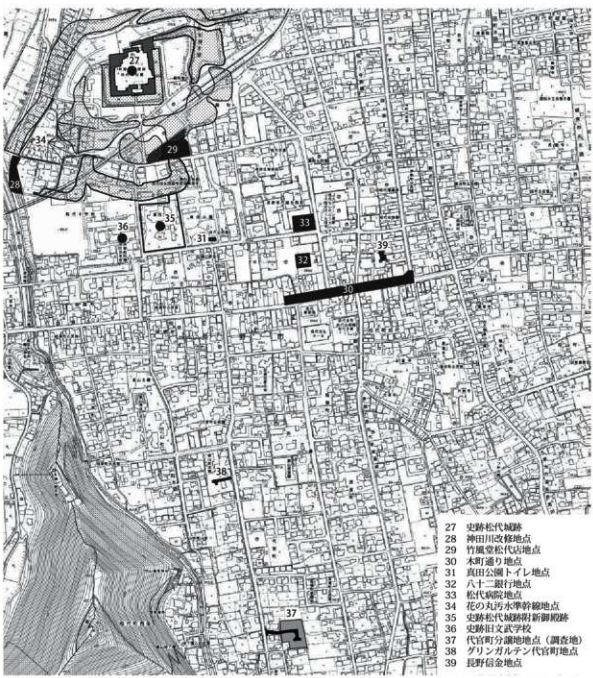


図3　周辺調査地位置図（縮尺1/7,500、平成24年長野市都市計画図に加筆）

第２章　調査成果

第１節　遺構

調査区は東西約 65m あり、泉水路を境に西をW区、東をＥ区とし、Ｅ区は西からＥ１～４区に任意に分割した（図４）。調査は工事工程に合わせW区から開始した。地表から検出面までの深さはW区西端で約 20㎝、中央で約 49㎝、１号不明遺構西端で約 54㎝である。Ｅ区では西端で約 33㎝、Ｅ２区西端で約 60㎝、Ｅ４区南端は約 26㎝であった。１号窯跡西部では約 16㎝、２号窯跡最高位である調査区東北隅で 3.4㎝、焼成室内は約 43㎝である。溝跡東端は 93.8㎝､西端は 86.6㎝となる。W区の遺構についてはW区遺構観察表（表１）に記載した。

W区の調査

基本層序はW区の東西で堆積状況が異なり、東部は検出面が１面で幕末から明治頃と想定した。西部ではさらに下層に検出面が確認でき、西部の遺構である２号土坑は出土遺物から江戸後期の所産と見做される。１次検出面の遺構としては、３～５号土坑、１号不明遺構、敷地境界付近で水道施設である桶を埋設した１号土坑、１号井戸跡が検出された。出土遺物の年代から、１号土坑は 19 世紀前半から半ばの遺構とみられ、１号井戸跡は近代まで遺存していたと考えられる。３～５号土坑は東西に並んで検出されたため関連が想起されるが、性格は判然としない。１号不明遺構は現存する石組池に隣接する。調査時に池の排水をすることができず、池との関係を確認していない。北辺も調査区外となり完掘していないが、南西辺の上端が直線的であることから、遺構は方形を呈すると推測される。壁下には木材が並び、１号井戸跡から延びるとみられる土管が木材下を通っていた。底面では東寄りに木杭で固定された丸木列が弧状に検出され、丸木列の西側に沿って礫層がみられた。この状況から東に現存する池が本来は１号不明遺構まで広がっていたとみられる。遺構内部は大量の陶磁器や窯道具、コンクリート片で充填されており、近代に埋め立てられ建物基礎として整地したと考えられる。このほかW区中央付近では小穴１基を検出した。先端を尖らせた丸木を埋設しており、柱穴になるとみられるが、遺構の所属時期は不明である。

表１　W区遺構観察表

単位m,（）内は現存値・推定形

遺構名	長軸	短軸	深度	平面形	断面形	備　考
SK1	0.76	0.68	0.46	円形	箱形	樽を重ねた水道施設,19C前中期
SK2	0.92	(0.60)	0.61	(円形)	箱形	水道施設か,江戸後期
SK3	1.62	8.50	0.48	楕円形	台形	幕末～近代
SK4	2.44	1.46	0.70	不整形	台形	幕末～近代
SK5	1.43	1.23	0.55	楕円形	台形	幕末～近代
SE1	1.08	(0.60)	(0.60)	(円形)	(箱形)	近代まで使用か,未完掘
SX1	(1.74)	(1.86)	0.44	(方形)	階段状	幕末～近代,開窯後埋め立てか
P1	0.34	0.30	0.20	円形	U字形	柱材あり
池	4.68	3.16	60.0	台形	箱形	外周不定形石材を２～３段積み

Ｅ区の調査

Ｅ区の調査は調査区北・東壁にトレンチを掘削することから開始し、東部の屈曲部を中心に焼土や遺物が確認された。Ｅ区全域で基本層序を確認したが、表土以下窯構築時の検出面（地山層）まではすべて窯廃絶後の埋土であることが判明した。このため遺物が表土直下から出土することが予想され、調査区内の重機による掘削土から遺物の採集を行った。また擁壁建設予定地であった保護対象範囲北側斜面においても遺物の採集を行った。調査区内の重機による表土掘削は焼土が検出される深さまでに留め、それ以下は作業員による遺構精査を行い、素焼窯とみられる１号窯跡と登窯である２号窯跡が検出された。

１号窯跡については南北にトレンチを掘削し、半透明の粗砂と白色灰層が検出された。また調査区北壁で窯砂や灰、炭化物の層が確認され、上層では製品の小片や窯道具が出土した。下層では団子トチと円錐ピンが大量に出土し、被熱した硬化面と間層を挟み床面直上に炭化物層が検出され、２面の焼成面を確認することができた。

床面では内部に土坑４基を伴っているが、機能については不明である。また床面において地山が露出している部分の平面形は方形や略方形が多く、礫やレンガが配されていたと推測される。内部の土坑や石列の配置から、東西軸で窯が構築されていると推測されるが、詳細な構造や範囲は不明で、窯砂や灰・レンガなど窯に伴う土層や遺物、土坑の分布から推定した（図 13）。その規模は２号窯跡の西端に並ぶ石列から１号窯跡１・２号土坑の東までの約 3.5m、幅は検出した部分だけで約 4.8m あり、調査区北壁の外に続く。代官町窯を継承した加藤房造の息子である信太郎が 1879 年（明治 12）の『長野県勧業課陶磁器一件書類』「陶器焼製法調」で素焼窯とするものは高さ５尺（約 1.5m）、横５尺、厚さ７尺（幅約 2.1m）と記載され、１号窯跡とは規模が異なることから、別の窯跡の可能性もある。

２号窯跡は東壁トレンチを掘削中に、削平された窯跡北部から階段状に下る土層が確認された（図 13・14）。「陶器焼製法調」の本焼窯は３寸勾配で７房ある登窯で、１の間が横４尺（奥行約 1.2m）、長さ２間（幅約 3.6m）、７の間が横５尺（奥行約 1.5m）、長さ３間（幅約 5.4m）と記載され、代官町窯の見取り図（唐木田 1993）の焼成室数とも一致する。全長約 11m、勾配は 17°で、当時の地表からの高さは約３ｍであったと想定される。２号窯跡は焚口から長さ約 3.6m まで残存しており、燃焼室は奥行 1.2m、幅 1.8m、調査区東壁外へと続く。壁の基部には規格性をもつレンガが二重に弧状に配置されているが、内側のレンガ列内には一面に炭化物が堆積していた。二重にレンガ列がある理由や上部構造については不明である。焼成室は奥行 1.8m、検出された幅は 2.7m で同じく調査区外に続く。本焼窯の１の間と推定されるが、記録よりも奥行が広い。壁の基部には方形の礫を使用している。第２焼成室より上はすべて削平されていた。第１・２焼成室間には狭間柱の痕跡が５ヶ所確認され、狭間穴の幅は 20 ～ 30㎝である。狭間構造は土層堆積状況から有段斜め狭間と推測されるが不明である。断面で確認した土層堆積では（図 14）、焼土や炭化物層の下に焼成面があり、４面確認された。しかし、遺構掘り下げ時には上下２層までしか分層することができなかった。第１焼成室の床面で検出された方形礫は被熱していないことから、焼成室の壁の基礎として半円状に並べて埋設されていたと考えられ、窯跡上層ではこの礫列の上層に大型の匣鉢が伏せて配置され、窯の壁材として利用されていた。第１焼成室外側には柱穴３基が検出された。窯内部からは製品とともに大量の窯道具が出土している。

２号窯跡には北へ傾斜する地形とは逆に南に焚口を配するという珍しい特徴がみられるが、窯跡の第２焼成室より上の基盤には砂礫層が盛土され、窯の前面に溝を設けて水を西へと排水していたと推測され、溝跡と窯跡の間に２列の木杭列を打設して地盤強化をしていた可能性もあり、湧水対策と地盤強化を重視した構造である。西

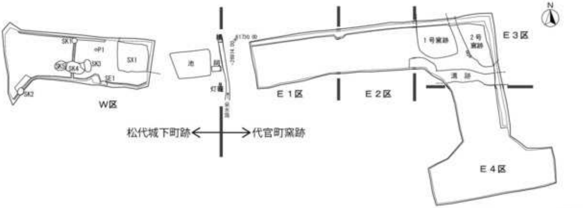


図４　遺構配置図（縮尺 1/500）

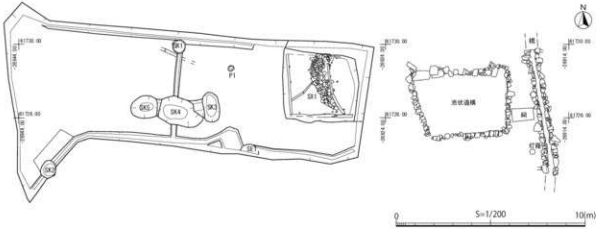
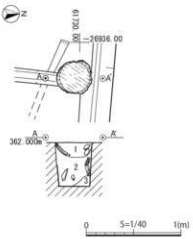


図5　W区全体図（縮尺 1/200）



1　黄灰色 2.5Y4/1 粘土。粘性・しまりあり。小礫・遺物少。
2　オリーブ黒色 5Y3/1 粘土。粘性・しまり弱。中粒砂・炭化材・漆器、陶磁器多。
3　暗灰色 N3/　粘土。粘性あり。しまりやや弱。

図6　W区1号土坑実測図（縮尺 1/40）

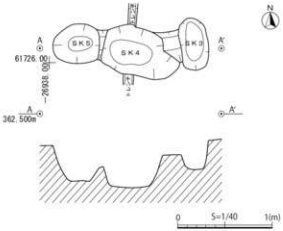


図8　W区3・4・5号土坑実測図（縮尺 1/40）

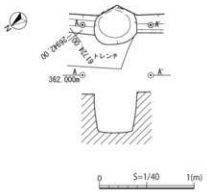


図7　W区2号土坑実測図（縮尺 1/40）

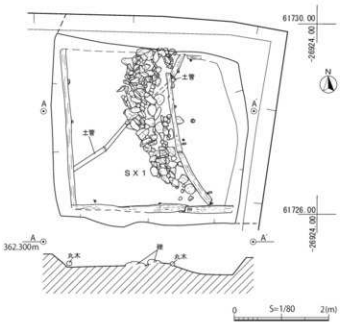


図9　W区1号不明遺構実測図（縮尺 1/80）

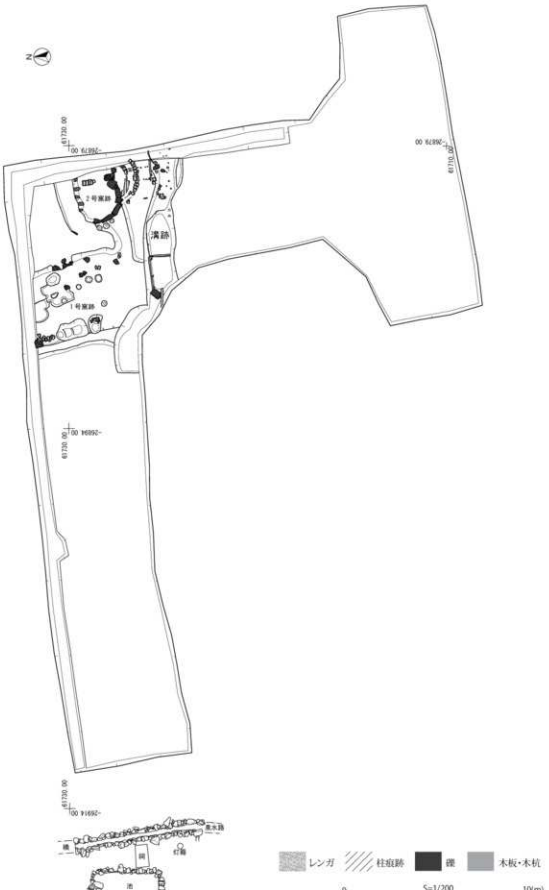


図 10　E 区全体図（縮尺 1/200）

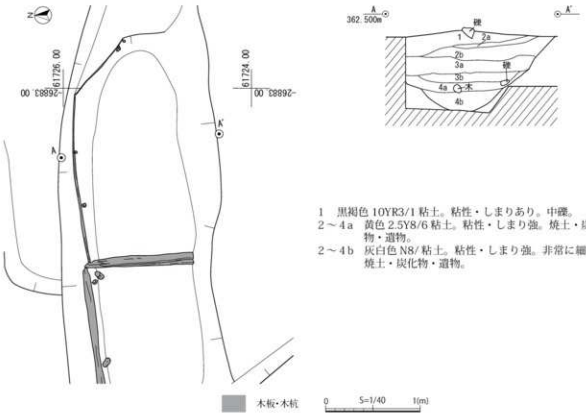


図 11　溝跡実測図（縮尺 1/40）

図 12　２号窯跡上層実測図（縮尺 1/60）

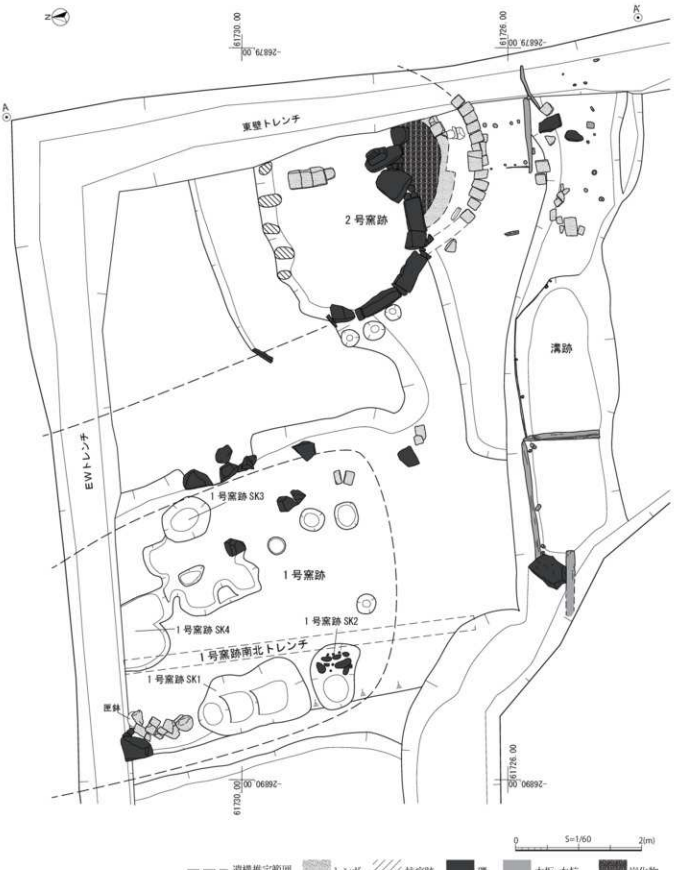
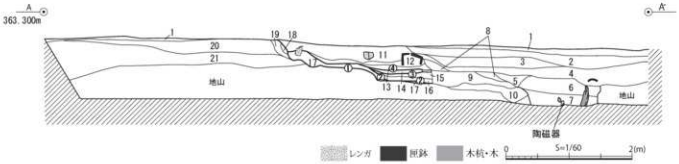


図 13　E 区東部下層実測図（縮尺 1/60）



1 暗褐色 10YR3/3 粘土。粘性・しまりあり。礫・橙色粒。表土。
2 黒褐色 10YR3/1 粘土。粘性・しまりあり。小礫少。窯跡廃絶後堆積土。
3 にぶい黄橙 10YR6/3 粘土。粘性・しまりあり。中礫・橙色粒。窯跡廃絶後堆積土。
4 にぶい黄橙 10YR6/3 粘土。粘性・しまりあり。小礫・橙色粒。窯跡廃絶後堆積土。
5 黒褐色 10YR3/1 粘土。粘性やや弱。しまりあり。窯跡廃絶後堆積土。
6 黒褐色 10YR3/1 粘土。粘性・しまりあり。小礫。溝跡覆土。
7 灰色 5Y4/1 粘土。粘性強。しまりやや弱。小礫。溝跡覆土。
8 黄橙 10YR8/6 土。粘性弱。しまりやや強。窯跡廃絶後堆積土。
9 黒褐色 10YR3/1 粘土。粘性・しまりあり。小礫・レンガ。窯跡廃絶後堆積土。
10 黄橙 10YR8/6 土。粘性弱。しまり強。窯跡由来。
11 橙色 2.5YR6/6 砂。粘性・しまりなし。焼土・レンガ片・窯道具。焼成室覆土。
12 灰黄色 2.5Y7/2 シルト。粘性弱。しまりあり。焼土・レンガ片・窯道具。焼成室覆土。
13 黒色 N2/0 炭化物。粘性・しまりなし。製品焼成時堆積。
14 橙色 2.5YR6/6 砂。粘性・しまりなし。焼土・レンガ片・窯道具。上面窯砂。④焼成面。
15 灰黄色 2.5Y7/2 シルト。粘性弱。しまりあり。砂・焼土。③焼成面。
16 灰黄色 2.5Y7/2 シルト。粘性弱。しまりあり。砂・焼土・レンガ片・窯道具。
17 灰褐色 7.5YR4/2 シルト。粘性・しまり弱。焼土・レンガ片・窯道具。②焼成面、①窯跡底面。
18 青灰色 5B4/1 土。粘性なし。狭間柱痕か。
19 灰褐色 7.5YR4/2 シルト。粘性なし・しまりやや弱。被熱。①窯跡底面。②～④面焼成面。
20 灰黄色 2.5Y7/2 シルト。粘性弱。しまりあり。小礫・砂。窯造成土。
21 灰白色 N8/ 礫。10cm大以上の礫主体。砂。窯造成土。

図 14　2号窯跡実測図（縮尺 1/60、調査区東壁トレンチ）

の側壁には 25 ～ 40cm大の礫が壁材として積まれていたとみられ、一部は原位置を保っていた（図 13）。

溝跡は 2 号窯跡の前で調査区を横断するように検出され、窯の形に添うように構築されていることから（図 13）、窯跡と併存していたと想定される。検出面からの深さは東部で約 35cm、西部で 55cmあり、溝壁を板と木杭で土留めし、西部は板で囲まれやや深い（図 11）。覆土も東西で異なり、東部が黒褐色や灰色の粘土であるのに対し、西部は灰白色できわめて細粒の粘土と焼土が互層で堆積し、窯跡に由来するか、あるいは未検出の水簸施設との関連が考えられる。溝跡内は湧水し、底面の高低差から西流すると想定される。溝跡が埋没後、匣鉢の側面破片を東西に並べて敷設しており（図 12）、調査区外まで続いていることを確認した。

第 2 節　遺物

遺物はコンテナ整理箱(縦 60 ×横 40 ×高 15cm)で 80 箱出土した。ここでは特徴的な遺物や、全体の出土傾向、代官町窯の性格に関わる部分について触れ、各掲載遺物については観察表(表 2 ～ 11)に詳述した。本文・観察表・図版ともに窯跡製品、窯道具、W区出土遺物の順に掲載したが、W区で出土した遺物でも代官町窯の製品と判断した場合は窯跡製品として掲載した。W区では陶磁器・土器・木製品（漆器・曲物・下駄・箸）・石製品（砥石）・銭貨が出土している。所属時期は近世後期を若干含みながら、幕末から近代を主体とする。E区では窯跡関係の遺物である陶磁器、窯道具、レンガ、その他の産地の陶磁器、金属製品では卸し金、中世須恵器片口鉢が出土している。所属時期は幕末から近代とみられ、磁器染付については文様と呉須の色調から幕末の製品の可能性が高いと考えているが、その他は個別に年代を確定することができなかった。

Ｅ区は全体的に攪乱を受けて遺物が調査区全域に分布していたため、出土日・出土位置・層位により分類し群による出土傾向などを検討し各項で述べた。なお掲載遺物・実測遺物はこのデータには含まれていない。

製品

製品破片の出土傾向は器種では土瓶・急須類が 960 点と最も多く、瓶 854 点、徳利 503 点、鉢 495 点、壺・甕 452 点、鍋 295 点と続く。器種については焼成時の破損比率を差し引いても土瓶・急須の出土量は多く、また瓶類もそれに次いで多いことが窺える。出土位置ではＥ２区 1,063 点、Ｅ１区が 729 点と量が多い。Ｅ３区は遺構が集中する範囲で、遺構内遺物に分類されたためか少量で、Ｅ４区は出土していない。遺構では溝跡が最も多く 922 点で、１号窯跡下層で 577 点、２号窯跡下層で 322 点が出土した。

磁器染付が出土したことは本調査における成果のひとつである。北信地域の近世在地窯の中で磁器染付の焼成に成功しているのは藤沢窯（下高井郡高山村）、吉向・須坂窯（須坂市）で、松代諸窯の採集資料には全く確認されず、陶器専焼窯と目されてきた。今回出土した磁器染付は文様と呉須の色調から近世の製品である可能性が高く、今後消費地遺跡において松代系磁器染付の出土が予想される。

陶器では小杯（37）や土瓶（92）、急須（94）に梅枝文がみられ、壺甕類と考えられる 83 には梅文が使用される。皿の文様は 40 ～ 42 のような草花文や、43･44 の見込の波文と内側の菊唐草文の組み合わせがみられる。43・44 は見込を輪状に釉剥ぎする五寸皿で、近世後期から幕末にかけて流行するが、見込の波文は他では見られない意匠で磁器染付の 11・17 にもみられる代官町窯独特の意匠と考えられる。真田宝物館に所蔵されている松代焼の採集資料である藤田コレクションには寺尾名雲窯の製品があるが、37 の梅枝文、五寸皿（43・44）と同じ文様がみられる。ただし皿の見込文様は帆掛け船文で異なっている。帆掛け船文として生産していたものが、次第に形が崩れて波文へ変化していった可能性があるが、大窯業地である瀬戸美濃系や肥前系の文様を踏襲するだけでなく、アレンジを加えていった結果とも考えられる。54 ～ 57 の角皿にもその傾向があり、大規模窯の間隙を縫うような製品構成であったと推測される。擂鉢の卸目は左回転で見込と側面を分けて二段階で施文する製品と一回で施文する製品がある。胎土は石英や白・黒・赤色粒を含み、粗い典型的な松代焼の胎土である。製品全体を通して、胎土は大型製品では石英や白・赤・黒色粒を含有する粗いものであるが、小型製品では精良な胎土も多く、他地域製品との識別は簡単ではない。餌猪口（96・97）の把手は輪状ではなく舌状を呈する。瀬戸系の製品と類似する。101 は涼炉である。137・138 は窯関連工具である。137 は施文具とみられ、中心の孔に棒を差し込み回転させて使用したと考えられる。138は乳棒の先端部分で釉薬などを粉砕するためのもので、先端は使用により摩滅して滑らかである。

製糸関連製品

製糸関連製品は本文に詳細を記す。製糸関連製品は 114 ～ 116、134・135 を図化した。114・134・135 は繰糸鍋で、114 は口縁長 37㎝、幅 31.5㎝、底部長 23㎝、幅 22.2㎝、器高 10.5㎝、重量 4.1㎏、134 は口縁長 41.7㎝、幅 29.8㎝、底部長 32.9㎝、器高 11.8㎝、重量 4.5㎏、115・116 は煮繭鍋で、115 は口径 30.3㎝、底径 19.7㎝、器高 16.7㎝、重量 2.65㎏、116 は口径 21.2㎝、底径 15.7㎝、器高 11.6㎝、重量 1.514㎏である。114・135 は同型製品で、134 は半円状の口縁に孔が設けられている点が異なるがほぼ同型である。いずれの成形も粘土紐巻上技法で楕円形に成形後、下部をロクロケズリし、上部をロクロナデで整形している。その後半分に切り取り背板を貼り付けている。背板はナデとケズリにより整形されている。導水管は貼り付け後、小孔を列状に開口している。134・135 は素焼の未成品であるが、114 は内面飴釉に近い透明釉が施釉されている。115・116 は繰糸鍋と組み合わせて使用する煮繭鍋で桶形であるが、導水管が付随する構造は繰糸鍋と同様で、成整形技法や導水管の貼り付け方法など共通点が多い。115 の釉薬は繰糸鍋と同じだが、116 は長石釉で、導

水管の位置も異なる。117 は導水管がなく、製糸関連製品ではないとみられるが、器形としては繰糸鍋と同型で、成整形技法も同じである。口縁長 34.0㎝、欠損している幅の残存値は 27.8㎝、器高 11.7㎝、重量 2.706㎏でW区１号不明遺構から出土した。

窯道具

窯道具では、匣鉢は溝跡に多く、窯跡でも若干出土する傾向がある。焼台である窯道具Ａ～Ｈやトチ類は窯跡の上層に多い。小型の窯道具であるニギリや輪トチ、団子トチは排土からの出土が多いほか、１号窯跡下層にも集中している。円錐ピンも１号窯跡下層に集中しているが、原因は不明である。窯道具の胎土は製品と同質である。

匣鉢は通常の使用の他、窯内部で窯の基礎である礫やレンガの上に壁材として伏せ置かれていたものや、溝跡埋没後に側面を上にして一列に埋設してあるものなどがみられた。小型のものは平底と底部を下に膨らませ、重ねやすくしているものの２種類がある。大型のものは口縁部に抉りを入れ、焼成時に熱が流入しやすい構造になっている。149 は体部下端に小孔を開け同様の効果を得ようとするものである。匣鉢の口縁上面にはトチが付着したものがみられ、重ね焼きに際して間に挟んだようである。焼台は窯道具Ａ～Ｅ・Ｇ・Ｈに分類した。窯道具Ａ（153 ～ 156）は上面に孔をもつ円筒の焼台の下部をアーチ状に抉り脚部を作りだすもので、関西系の窯道具である。ＢはＡのような脚部はなく、下端が直線的なものをＢ１（157 ～ 160）、上面端部から下端にかけて外反するものをＢ２（161 ～ 164）、下端が端反りになるものをＢ３（165 ～ 169）、上面の孔の外周が一段盛り上がるものをＢ４（170･171）、そのほかをＢ５（172）とした。Ｃ（173･174）はＢに脚が附属し、Ｄ（175 ～ 180）は板トチの中央に孔がある形状である。Ｅは円筒状で口縁が水平に突出したものである（182・183）。181 のように底部があるものも含まれる。Ｇ（184 ～ 186）は断面台形で上面は開口し、底部も大きな孔がある。Ｈは円筒状で上面に孔がないもので（187・188）、187 のようにトチとともに製品間に挟んで使用したと考えられる。板トチはＡ～Ｄに分けた。Ａ（189 ～ 192）は底部がやや丸底で、Ｂ（193 ～ 198）は厚さ４～６㎜程度と薄く、それより厚いものはＣとした（199）。板トチに脚が付加されたものをＤ類とした（200・201）。輪トチは外径 10㎝を境として大小に分類した(202 ～ 208)。脚付輪トチは成形技法の違いによりＡ～Ｃに分け、Ａは円錐形または四角錘形の脚を貼付けているもの（209 ～ 217）、Ｂは輪トチ下面を指圧により成形し、脚を摘んで作りだすものとし（218 ～ 221）、代官町窯独自の窯道具の可能性が高い。ＣはＡ・Ｂ以外のものである（222）。このほかハマ・脚付ハマ（223･224）・焼台（225･226）・トチ（227 ～ 232･234･235）・ニギリ（236･237）・半球トチ（233）・円錐ピンがある。円錐ピンは図を掲載しなかったが、形状が均質で型成形によると推測される。団子トチは未実測の資料で計測可能な 1,472 点を直径で６段階に分類し、６㎝以上をＡ、５㎝大をＢ、４㎝大をＣ、３㎝大をＧ、2.5㎝以上３㎝未満をＤ、２㎝以上 2.5㎝未満をＥとした。Ｃが 763 点、と最も多く、ついでＢが 265 点、Ｇが 208 点であった。製品や団子トチに残された痕跡から、この３種類は擂鉢や鉢など中型の製品を窯詰めする際に多用されていたことが判明し、出土比率の多さからも、鉢類が主力製品のひとつであったことを示唆している。

レンガ

262 ～ 265 は窯体に使用されたレンガで、代表的な例として写真のみ掲載した。レンガは形状と厚さなどにより７種類に分類した。Ａを厚さ 3.5 ～５㎝の角型、Ｂを隅丸方形の小型のレンガ、Ｃが瓦状、Ｄは厚さが６㎝以上、Ｅは厚さ６㎝未満、Ｇは厚さ 3.5㎝未満、Ｆはその他とした。完形のものが少なく具体的な形や使用方法が不明であるが、２号窯跡燃焼室底面に弧状に敷かれていたレンガがＤに含まれる。262 はＥ区包含層から出土した。欠損しているため現存値であるが、長さ 28㎝、幅 20㎝、厚さ 16.2㎝、重量 8.55㎏でＦに分類した。にぶい赤褐色で、非常に粗い胎土で３㎝大以下の礫を多く含む。上面に窪みが設けられる。側面には厚さ１～３

㎝の釉が付着しているため内壁の可能性がある。263 はＢ類で調査区北壁東西トレンチから出土した。長さ 12㎝、幅 9㎝、厚さ 4.3㎝の隅丸方形で、にぶい赤褐色の胎土で非常に粗粒であり、礫を多量に含む。被熱により非常に脆弱化している。上下面に手指による圧痕が４ヵ所観察される。成形は不明であるが、型と手づくねによる成形の可能性が高い。264 はＤ類で２号窯跡下層から出土した。長さ 21㎝、幅 18㎝、厚さ 6.5㎝、重量 3.65㎏である。方形で、上下面に使用痕跡がみられる。にぶい赤褐色で、胎土は非常に粗く礫を多く含む。265 は１・２号窯跡上層から出土した。側面に縦方向の窪みがあり、他の面は釉が付着する面と何も観察されない面がある。一辺 16.5㎝の正立方体に近いＤ類で、上方は小形化する。高さ 12㎝、重量 3.35㎏で 264 と同じ胎土である。

Ｗ区出土遺物

Ｗ区の１号土坑で掲載した製品は瀬戸美濃系を主体とする。267 は非常に厚手で施釉ムラがある磁器染付で、美濃焼と考えられる。270 も文様の特徴から美濃焼とみられる。268 は瀬戸焼の古瀬戸小西窯跡で 19 世紀中葉にみられる製品である。２号土坑の 272 は 18 世紀代の肥前系灰釉陶器碗で、内面にススが付着していた。４号土坑の 273 は草花文の鉄絵碗、274 は菊花文の色絵碗で、器形と文様から 18 世紀後半の京信楽系製品と判断した。１号不明遺構は近代の製品と窯道具で占められ、ほとんどが瀬戸美濃系と代官町窯の製品とみられる。276 ～ 278、292 ～ 295 は型紙刷の磁器染付で、明治から大正期にかけての瀬戸美濃系製品である。281 はクロム青磁の碗、280 の縦縞文、283 の横線文、286 の麦わら手など典型的な瀬戸美濃系製品が出土した。縦縞文については代官町窯の徳利（25）にもみられる。299 は肥前系の磁器染付鉢で漆継がされており、高台内に修理の際の朱書が残っている。296・297 は大正から昭和期の製品で、産地は不明である。

第３節　総括

代官町窯は 1839 年（天保 10）家老恩田頼母の指揮で藩士岩下革の屋敷隣接地に開窯した。その後吉向行阿の弟子で瀬戸の陶工である加藤房造が継いだとされ、その時期は吉向が須坂を去った 1853 年（嘉永６）前後のことと推測される。明治期には７室有段連房式登窯と１室の素焼窯があったとの記録があるが、1933 年（昭和８）閉窯した。調査では遺構の位置と規模・形状から、１号窯跡が素焼窯の可能性が高く、２号窯跡は本焼き用の登窯と判断した。２号窯跡の狭間構造は有段斜め狭間の可能性もあり、また燃焼室の平面構造からは古窯である可能性もあるが不明である。窯の構造の特徴としては地形の傾斜とは逆に窯を構築すること、窯の前面に排水用の溝を設けることが挙げられる。製品と窯道具の特徴からは、瀬戸美濃系と関西以西の系統の影響を受けながら、独自の文様や器形を生み出していることが窺えた。また梅枝文については寺尾窯にも同じ文様がみられることから、松代系の系譜が想定される。代官町窯は、それまでの松代系窯の京・信楽系技術と、関西系の陶工である吉向、瀬戸の陶工である加藤房造により、瀬戸系・関西系技術の影響を受け発展していったと見做される。今後の課題は調査で判断できなかった製品の年代を識別することである。今回の調査で明らかになった松代系の製品群の特徴をもとに、より確実に松代系陶磁器の識別ができるようになったと思われる。今後消費地遺跡における出土状況、特に他地域製品との共伴関係により、製品の年代を確定していく必要があろう。

表２　掲載遺物観察表（製品）

胎土含有物　雲母:母石 石英:長石 角:角閃石 砂:粒子 赤:赤色粒 白:白色粒 黒:黒色粒

掲載番号	調査区	遺構名	出土位置	層位	種類	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	重量(g)	残存率	胎土	釉薬	成形・調整・焼成技法	備考
1	E	2号窯跡		下層	青磁	碗	10.8	3.9	5.0	86.4	3/6	灰色.精良.硬質	外青磁.内一工緑外透明釉	ロクロ成形.削出高台.貫付圓形	
2	E	窯跡		上層	青磁	碗	8.8	4.8	7.9	68.6	4/6	灰白色.精良.硬質	内・畳付透明釉.外青磁淡緑色	ロクロ成形	畳付窯砂付着.融縁釉溜元
3	E	11区		排土	磁器	不明	－	－	(1.2)	3.3	－	灰白色.精良	内透明釉.外瑠璃釉	ロクロ成形	
4	E	溝跡	西部	上面	磁器製付	碗	10.4	－	(4.7)	62.0	2/6	灰白色	呉須濃青色.透明釉か	ロクロ成形.外側押文	底成不良.釉ガラス化せず
5	E	窯跡	EWトレンチ		磁器製付	碗	－	3.5	(4.0)	63.5	2/6	灰白色.精良.やや硬質	白化粧.呉須淡青色.透明釉.施釉ムラ	ロクロ成形.削付圓形.外側押文.体外下端二重圓線.見込一重圓線	見込焦痕.貫付付着
6	E	溝跡	西部	1層	磁器製付	碗	10.4	－	(3.4)	8.1	1/6ヶ	黄灰色.精良.やや硬質	白化粧.呉須暗青色.透明釉	ロクロ成形.工縁内外圓線.外側化粧刻	
7	E	窯跡	EWトレンチ		磁器製付	碗	10.4	－	(1.5)	3.6	1/6ヶ	灰白色	呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.工縁内外圓線.外側草文	
8	E	溝跡	西部	1層	磁器製付	碗	9.0	－	(5.1)	11.0	1/6ヶ	灰白色.硬質.やや硬質.ややガラス質	呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.外側草花文か	
9	E	1号窯跡	周辺		磁器製付	碗	10.0	－	(3.2)	7.7	1/6ヶ	灰白色.精良	呉須淡青色.透明釉	ロクロ成形.工縁内外圓線.菊花文	
10	E	2号窯跡		下層	磁器製付	碗	－	－	(3.4)	14.3	1/6ヶ	黄灰色.精良	呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.外側圓線・草文か.見込圓線	外面窯砂付着
11	E	窯跡		上層	磁器製付	碗	－	4.2	(1.6)	12.2	1/6ヶ	灰白色.精良.硬質	白化粧.呉須暗青色.透明釉	ロクロ成形.貫付圓形.高台脇圓線.見込渦文	
12	E	溝跡	西部	1層	磁器製付	碗	－	－	(3.6)	6.7	1/6ヶ	灰白色.精良.硬質.ガラス質	白化粧.呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.外側菊花文.見込圓線	外面窯砂付着
13	E	窯跡	EWトレンチ	上層	磁器製付	碗	－	4.0	(4.6)	16.7	1/6ヶ	灰白色.硬質.ガラス質	白化粧.呉須暗青色.透明釉	ロクロ成形.外側草花文	
14	E	2区	EWトレンチ		磁器製付	碗	－	3.4	(2.7)	40.1	3/6	灰白色.やや軟質.硬質.ガラス質	白化粧.呉須暗青色.透明釉	ロクロ成形.外側草花文	24と同一文様.歪み.畳付・見込・外側窯砂付着
15	E	溝跡	西部	1層	磁器製付	碗	－	4.0	(3.0)	7.7	1/6ヶ	灰白色.やや軟	白化粧.呉須青色.透明釉	ロクロ成形.外側丸文.高台脇二重圓線2単位	
16	E	11区		排土	磁器製付	碗	－	3.0	(1.1)	7.1	1/6ヶ	灰白色.軟質.硬質.ガラス質	呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.外側丸文・蔓文.高台脇圓線	
17	E	溝跡	西部	1層	磁器製付	碗	9.4	1.7 製品3.5	1.8 板トチ0.6	75.0	3/6	灰白色.精良.やや硬質.ガラス質	呉須濃青色.透明釉	歪みにより成形不明.板トチ目に直線.見込一重圓線内渦文か.外文様あり	
18	E	窯跡	周辺	検出面	磁器か	碗	7.8	3.7	6.1	116.7	4/6	灰白色.精良.硬質	鉄絵か.呉須暗黒褐色.透明釉	ロクロ成形.底回転糸切.外側入物文	底外刻螺.釉発色不良
19	E	溝跡	西部	1層	磁器製付	小杯	－	－	(4.8)	13.5	2/6	灰白色.硬質.ガラス質	呉須暗青色.透明釉	ロクロ成形.貫付圓形.江縁外圓線.外側丸文.高台脇一重圓線・二重圓線	畳付砂付着
20	E	2区	EWトレンチ		磁器製付	小杯	－	3.0	(3.2)	15.7	3/6	白色.精良.やや硬質.ややガラス質	呉須暗青色.透明釉	ロクロ成形.体外圓線.高台内一重圓線・「吉河高之」銘	
21	E	溝跡	西部	2層	磁器製付	小杯	7.0	－	(1.5)	3.4	1/6ヶ	灰黄色.やや軟.ややガラス質	呉須暗青色.透明釉	ロクロ成形か.外側草花文か.ダミ	破片付着
22	E	溝跡	西部	1層	磁器製付	碗	長(3.6)	短(2.1)	－	3.9	1/6ヶ	灰白色.硬質.ガラス質	呉須淡青色.透明釉	ロクロ成形.外側菊花文.見込圓線	外面窯砂付着
23	E	2区		排土	磁器製付	碗	－	－	(4.0)	9.4	1/6ヶ	灰白色.硬質.ガラス質	呉須淡青色.透明釉	ロクロ成形.工縁内外圓線.外側丸文	外側釉付着
24	E	2号窯跡		下層	磁器製付	碗	長(2.7)	短(2.2)	－	3.7	1/6ヶ	灰白色.硬質.ガラス質	白化粧.呉須暗青色.透明釉	ロクロ成形.外側草花文	14と同一文様
25	E	11区	EWトレンチ		磁器製付	徳利	－	6.0	(2.9)	40.5	底部	灰白色.硬質.ガラス質	呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.外側圓線・縦鎬文.底外・内渦胎	底部焼歪みによる亀裂
26	E	1号窯跡		下層	磁器製付	徳利	長(6.0)	短(3.4)	－	11.1	1/6ヶ	灰白色.硬質.ガラス質	呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.外側草花文	
27	E	窯跡	周辺	上層	磁器製付	壺か	－	－	(5.0)	5.8	1/6ヶ	灰白色.硬質.ややガラス質	呉須暗青色.透明釉	ロクロ成形.外側風景文.高台脇圓線	畳付砂付着
28	E	窯跡	周辺・EWトレンチ		磁器製付	仏飯器	7.0	－	(2.2)	18.8	2/6	灰白色.硬質.ガラス質	呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.外側圓線間菊唐草文	歪み.口唇窯砂付着
29	E	窯跡	EWトレンチ		磁器製付	仏飯器	6.6	－	(2.7)	17.5	杯部2/6	灰白色.精良.硬質	呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.外側圓線間菊唐草文	歪み.口唇窯砂付着
30	E	11区	EWトレンチ		磁器製付	急須	長(4.6)			15.9	1/6ヶ	灰白色.硬質.ガラス質	呉須青色.透明釉	ロクロ成形.中空.取付.把手内渦胎	
31	E	窯跡		上層	磁器製付	火入	長(12.5)	－	(4.5)	68.4	－	白色.やや軟.硬質.ガラス質	呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.内面・畳付渦胎	歪み
32	E	窯跡		上層	磁器製付	不明	長(4.8)			4.5	1/6ヶ	灰白色.軟質.硬質.ややガラス質	呉須青黒色.透明釉	ロクロ成形.工縁内外圓線	
33	E	窯跡		上層	磁器製付	不明	－	－	(2.5)	9.5	1/6ヶ	灰白色.硬質.ガラス質	呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.外側梅花文.輪郭内ダミ	外面窯砂付着
34	E	溝跡	東部	上面	陶器	碗	10.4	4.2	6.0	70.0	3/6	灰白色.軟.長石粒目黒	透明釉	ロクロ成形.削出高台.貫付圓形	畳付窯砂付着
35	E	溝跡	東部	最下層	陶器	碗	11.5	5.6	8.2	225.8	5/6	黄灰色.赤白	灰釉.失透	ロクロ成形.削出高台.貫付圓形.見込円圏ビン底3	見込に亀裂.施釉ムラ
36	E	1号窯跡		下層	陶器	碗	9.0	－	(7.2)	205.8	5/6	灰白色.やや軟.硬質	内透明釉.外鉄釉	ロクロ成形	
37	E	溝跡	西部	1層	陶器	小杯	7.2	3.2	4.7	38.9	4/6	灰白色.精良.やや軟.軟質	内透明釉.外鉄釉	ロクロ成形.削出高台.梅花文陰刻	焼成か.釉薬不良.寄足若宮窯表採品と同一文様
38	E	溝跡	西部	2・3層	陶器	小杯	7.2	3.6	4.1	43.3	4/6	灰色.精良.密	内白化粧・透明釉.外灰釉.文様状	ロクロ成形.削出高台.外側灰釉で波状文	
39	W	1号土坑		最下層	陶器	小杯か	6.4	3.6	3.3	22.2	3/6	にぶい橙色やや密.赤白	灰釉流け掛け	ロクロ成形.外下半ロクロケズリ.外下端一底露胎	
40	W	1号不明遺構			陶器製付	皿	14.8	6.3	3.2	88.6	3/6	灰色.やや精良.岩赤白	白化粧.呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.貫付圓形.見込ビン底3.見込単花文	
41	E	1号窯跡		下層	陶器製付	皿	16.0	6.6	3.6	87.4	2/6	灰白色.精良.黒	白化粧.呉須濃青色.透明釉	ロクロ成形.外下半ロクロケズリ.見込単花文	

表3　掲載遺物観察表（製品）

胎土含有物　雲:雲母,石:石英長,長石,角:角閃石,砂:砂粒,礫:赤:赤色粒,白:白色粒,黒:黒色粒

掲載番号	調査区	遺構名	出土位置	層位	種類	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	重量(g)	残存率	胎土	釉薬	成形・調整・焼成技法	備考
42	E	1号窯跡	EWトレンチ		陶器染付	皿	－	6.4	(2.4)	80.4	2/6	灰白色やや粗.硬質	呈須濃青色.透明釉.緑色	ロクロ成形.畳付露胎.見込蛇花文	
43	E	溝跡	東部	上面	陶器	皿	14.6	7.1	4.5(3.2～3.5)	185.1	3/6	淡黄色.やや粗.軟質.砂白	白化粧.鉄絵黄色.透明釉	ロクロ成形.剤付高台.畳付露胎.見込蛇ノ目釉剥ぎ.蛇ノ目凹型高台.見込波文.内側菊唐草文	蛇ノ目釉剥ぎ重ね焼き位置ズレ.釉不良
44	E	1号窯跡	EWトレンチ		陶器	皿	－	5.8	(2.3)	104.3	底部	灰白色.やや粗.硬質	白化粧.鉄絵黒褐色.透明釉	ロクロ成形.蛇ノ目釉剥ぎ.畳付露胎.内側菊唐草文.見込波文	重ね焼き痕.素地に.釉殺
45	E	1号窯跡		下層	陶器	皿	13.8	6.1	3.0	52.3	1/6	灰白色.白黒	白化粧.鉄絵.灰釉.淡緑色	ロクロ成形.剤付高台.畳付露胎.見込鉄絵.見込円圏ピン痕2	施釉ムラ
46	E	窯跡	周辺	焼出面	磁器	皿	17.0	－	(3.4)	44.4	1/6	灰白色.精良.やや硬質	鉄絵黒褐色.透明釉	ロクロ成形.見込蛇ノ目釉剥ぎ.口縁内.一重圏線.内側菊文	
47	W	1号土坑	SK3と接合	最下層	陶器	皿	13.8	6.9	3.0	98.9	4/6	に.ぶい.褐色.やや密.砂白	灰釉.白色釉	ロクロ成形.畳付露胎.白色釉流し掛け	釉発色悪.焼成不良か
48	E	窯跡		上層	陶器	皿	－	6.8	(1.6)	60.1	底部	に.ぶい.褐色.やや密.雲石黒	白化粧.鉄絵黄褐色.灰釉.透明	ロクロ成形.剤付高台.畳付露胎.見込釉掛ぎ.円圏ピン(見込ピン痕5.畳付ピン痕3)	口縁内重ね焼痕
49	E	溝跡	西部		陶器	皿	9.9	4.9	2.7	77.1	5/6	灰黄色.やや粗.やや硬質.白黒	白化粧.呉須.灰釉.鉄絵黒褐色	ロクロ成形.剤付高台.畳付露胎.内口縁鉄釉.灰釉掛分け.見込呉須幾何.見込ピン痕6か	施釉ムラ
50	E	溝跡	西部	1層	陶器	皿	14.0	8.4	3.8	41.3	1/6	オリーブ黒色.やや粗.石白	白化粧.灰釉.淡緑色	成形不明.折縁口縁.畳付露胎.内側菊花状隠.見込円形梅鉢二重	施釉ムラ
51	E	窯跡		上層	陶器	皿	10.0	4.8	2.3 製品(2.0)	57.7	5/6	黄灰色.精良	白化粧.鉄絵暗褐色.灰釉.白緑色釉	ロクロ成形.剤付高台.口縁輪花.畳付露胎.見込鉄絵.見込ピン痕4.畳付ピン1・ピン痕2.内側漏水.焼痕	
52	E	溝跡	西部	上層	陶器	皿	10.2	4.7	2.3 製品(1.9)	57.4	4/6	浅黄橙色.精良.白黒	白化粧.鉄絵暗褐色.灰釉.白緑色釉	ロクロ成形.口縁輪花.畳付露胎.見込ピン2・ピン痕2.畳付ピン4・ピン痕1.見込鉄絵	
53	E	溝跡	東部	上面	陶器	皿	10.0	4.6	1.7	42.2	3/6	灰白色.やや粗.軟質.白黒	白化粧.青色釉.明青色.灰釉.透明.白色釉.上絵	ロクロ成形.口縁輪花3単位.畳付露胎.見込花文	畳付黒透明片付着
54	W	1号土坑		下層	陶器	皿	7.6	3.6	2.4	71.8	6/6	灰白色.精良.硬質.ガラス質	灰釉.失透	型成形.角高台.型により内区画.見込梅花文.内側点描地花文.四隅に梭	施釉ムラ
55	W	1号土坑		下層	陶器	皿	7.5	3.5	2.3	53.5	5/6	灰白色.精良.硬質.ガラス質	灰釉	型成形.角高台.型により内区画.見込梅花文.内側点描地花文.四隅に梭	施釉ムラ
56	W	1号土坑		下層	陶器	皿	7.7	3.6	2.3	48.8	5/6	灰白色.精良.硬質.ガラス質	灰釉	型成形.角高台.型により内区画.見込梅花文.内側点描地花文.四隅に梭	施釉ムラ
57	W	1号土坑		下層	陶器	皿	7.4	3.5	2.3	56.2	5/6	灰白色.精良.硬質.ガラス質	灰釉	型成形.角高台.型により内区画.見込梅花文.内側点描地花文.四隅に梭	施釉ムラ
58	E	溝跡	西部	1・2層	陶器	鉢	－	6.3	(4.0)	174.3	底部6/6	に.ぶい.冷褐色.粗.石白黒	白化粧.内透明釉.外緑色釉	ロクロ成形.剤付高台.見込に5圏線付輪ト.チ付着	ボみ.白化粧剥離
59	E	窯跡	周辺		陶器	鉢	14.0	6.7	7.3	276.5	4/6	に.ぶい.褐色.粗.白黒	白化粧.灰釉か.緑色釉	ロクロ成形.剤付高台.畳付露胎.緑色釉流し掛け.見込円圏ピン痕5	重ね焼き片付着.釉不良
60	W	1号不明遺構			陶器	鉢	36.4	18.8	20.0	2,608.3	3/6	に.ぶい.褐色.白	緑色釉.白色釉	ロクロ成形.玉縁口縁.高台露胎.見込ト.チ痕3	
61	E	溝跡	西部	2層	陶器	鉢	31.4	16.5	15.6	2,623.9	4/6	黄灰色.粗.石長砂白	高台以外白化粧.灰釉.口縁部緑色釉.淡緑色	ロクロ成形.剤付高台.見込刷子ト.チ5	高台内釉で文字「青色見」か.施釉ムラ.緑色釉還元.赤色化
62	E	溝跡	西部	1・2層	陶器	鉢	20.4	10.4	11.2	998.4	4/6	に.ぶい.褐色.粗.砂赤白黒	白化粧.灰釉か.オリーブ灰色.緑色釉.淡緑色	ロクロ成形.剤付高台.高台露胎.見込刷子ト.チ4	高台内釉で文字「青色見」か.施釉ムラ
63	W	1号不明遺構			陶器	鉢	25.5	14.5	14.8	2,706.1	5/6	黄灰色.粗.石白	緑色釉.白色釉	ロクロ成形.玉縁口縁.高台露胎.見込・畳付ト.チ痕6～7	
64	E	溝跡		上層	陶器	片口鉢	16.8	9.0	9.0	557.9	5/6	暗灰色.やや粗.白黒	白化粧.灰釉.緑色釉.淡緑色.口縁鉄釉.流し掛け	ロクロ成形.剤付高台.畳付輪状取り.見込円圏ピン2・ピン痕3	口縁緑色釉還元赤色化
65	E	溝跡	西部	2・3層	陶器	片口鉢	19.5	8.5	9.2	570.0	5/6	灰色.白黒	白化粧.灰釉.淡黄色.口縁.赤色釉.赤色	ロクロ成形.剤付高台.口縁下.切返.注.後片口.貼付.畳付露胎.見込円圏ピン2・ピン痕4	施釉ムラ.焼成不良.釉発色.白化.畳付黒斑付着
66	E	溝跡	西部	2層	陶器	片口鉢か	17.0	7.4	7.6	320.7	4/6	黄灰色.やや粗.砂白	白化粧.灰釉オリーブ灰色.口縁赤色釉.暗赤灰色	ロクロ成形.剤付高台.畳付露胎.流け掛け.見込円圏ピン痕5	施釉ムラ
67	E	溝跡	東部	最下層	陶器	片口鉢	17.7	7.8	8.8	272.1	3/6	に.ぶい.褐色.やや粗.長砂白黒	白色釉.緑色釉オリーブ灰色	ロクロ成形.外下平～底ロクロケズリ.流け掛け.畳付釉剥取り	釉発色不良

表４　掲載遺物観察表（製品）

胎土含有物　雲:雲母,石:石英,長:長石,角:角閃石,砂:砂粒,礫:小礫,赤:赤粒,白:白色粒,黒:黒色粒

掲載番号	調査区	遺構名	出土位置	層位	種類	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	重量(g)	残存率	胎土	釉薬	成形・調整・焼成技法	備考
68	E	溝跡	西部	3・4層	陶器	擂鉢	32.5	16.7	16.1	2,254.6	4/6	にぶい褐色粗,雲石砂礫白黒	鉄釉灰褐色,灰釉灰白色	ロクロ成形,外下半～底ロクロケズリ,胴目13本1単位,上部胴目やや粗,上端チ消し,脚文順見込・内側同時に左回転,見込ヘラ描き作りだし,見込・摺付団子ナデ5～6mm大外6	底鳴製
69	E	2号窯跡		下層	陶器	擂鉢	－	15.6	(12.2)	746.7	2/6	にぶい橙色粗,石礫白黒	鉄釉にぶい赤褐色	ロクロ成形,削出高台,摺付露胎,胴目密,脚文順見込・内側同時に左回転,見込5cm大団子ナデ2	
70	W	1号不明遺構			陶器	擂鉢	28.4	14.1	15.4	567.9	2/6	にぶい褐色やや粗,白	柿釉	ロクロ成形,摺付露胎,胴目見込・内側2段隙,脚文左回転,上端チ消え	土師部外面重ね焼きにより胎剥離
71	E	窯跡	ＥＷトレンチ		陶器	擂鉢	27.6	12.5	15.4	516.1	2/6	にぶい橙色粗,雲白黒	鉄釉暗赤灰色	ロクロ成形,外下半～底ロクロケズリ,胴目櫛描8本1単位,上端ナデ消し,脚文左回転	焼歪み
72	E	1号窯跡		下層	陶器	瓶	－	9.0	(18.0)	519.7	3/6	黒褐色,白	鉄化釉,鉄釉外筋釉	ロクロ成形,摺付露胎	
73	E	溝跡	西部		陶器	瓶	2.8	－	(7.6)	58.5	口～肩1/4	にぶい橙色やや粗,礫質,白黒	白化粧,灰釉,透灰白色	ロクロ成形,頸部内絞り,底内頸部下露胎	
74	E	溝跡	東部	上面	陶器	瓶	2.1	3.0	7.5	75.8	5/6	にぶい褐色,粗,石白黒	柿釉,鉄釉	ロクロ成形,外下端～底・内露胎	底部,二重・空洞黒砂付着
75	E	溝跡	西部	1・2層	陶器	壺	－	5.8	(5.4)	127.8	4/6	灰色,白	白化粧,鉄釉黒褐色,頸部灰釉灰白色	ロクロ成形,摺付露胎	体部釉付着
76	W	1号土坑		下層	陶器	花瓶	7.8	－	(10.0)	121.0	3/6	灰色,雲白,密,白	白化粧か鉄釉上縁～肩部内外白色釉流下	ロクロ成形,双口貼付	
77	W	1号土坑		下層	陶器	徳利	－	5.7	(15.7)	141.7	4/6	にぶい褐色,白	灰色,肩部白色釉	ロクロ成形,摺付露胎	
78	E	溝跡	西部	1・2層	陶器	徳利	－	9.0	(16.2)	177.4	2/6	にぶい赤褐色やや粗,白黒	白化粧,柿釉,白緑釉明緑灰色	ロクロ成形	外面釉発泡
79	W	1号土坑		上下層	陶器	徳利	3.3	－	(13.7)	60.8	上位	浅黄橙色,白	白化粧・鉄化釉,灰釉・白色釉・呉須か,内釉流下	ロクロ成形,内露胎	釉発色不良
80	E	1区			陶器	水注	4.0	－	(10.7)	103.1	2/6	にぶい橙色黒	灰釉,オリーブ色,口縁緑色釉明青灰色	ロクロ成形,注口貼付	土師部内,外面付着物
81	E	溝跡	西部	2層	陶器	水注	－	7.4	(16.1)	473.8	5/6	黒色,白	白化粧か鉄釉オリーブ黒色,口縁柳明緑灰色,高台白色釉	ロクロ成形,胴目高台,肩部切抜き注口貼付,摺付圏チト少痕	外耳～体部黒砂付着,釉剥離
82	E	1号窯跡	周辺		陶器	甕	－	8.7	12.2	570.4	4/6	にぶい赤褐色,粗石砂礫白黒	鉄釉暗赤褐色,灰釉明緑灰色	成形不明,ロクロ整形,頸部灰釉で波状文,見込に板トチ付着	歪み,窯砂付着
83	W	調査区壁			陶器	壺蓋	－	7.7	(9.0)	183.8	4/6	灰白色,粗,石白黒	白化粧,鉄釉,イッチン	ロクロ成形,体外下～底露胎,外側イッチンで梅文	
84	E	溝跡	西部	4層	陶器	壺	4.0	3.6	5.6	81.3	4/6	暗灰色,粗,雲礫白	白化粧,鉄釉	ロクロ成形,底回転糸切	土師歪み,外側付着物
85	E	2号窯跡	燃焼室	上層	陶器	壺	8.7	－	(4.2)	27.6	1/6	にぶい橙色やや粗,赤白黒	鉄釉か灰釉に暗オリーブ黒色,灰釉	ロクロ成形,体部強目円形窪み口例部縁（推定4単位）	釉発色せず,剥離
86	E	溝跡	西部	2層	陶器	鉢	17.0	6.8	10.3 (8.6)	346.0	5/6	黄灰色,やや粗,白黒	白化粧,不明釉灰オリーブ色	ロクロ成形,口縁肥手一対貼付,脚3箇付後手指で整形	釉発泡
87	E	溝跡	東部	最下層	陶器	鉢	14.8	6.5	8.6 (7.2)	210.6	4/6	橙色,やや粗,石砂白黒	鉄化釉か,不明釉灰オリーブ色	ロクロ成形,外下半～底ロクロケズリ,肥手1対口縁貼付,外下端脚3箇付後手指整形	釉発色やや悪
88	W	1号土坑	SK3と接合	下層	陶器	行平鍋蓋	16.1	摘み径4.7	3.0	214.6	4/6	にぶい橙色やや密,砂礫白	灰釉灰色,白色釉	ロクロ成形,摘み端部露胎,流け掛け工縁端部釉掻取り	
89	W	1号土坑		下層	陶器	行平鍋	17.6	7.5	11.6 (8.8)	404.5	5/6	にぶい橙色やや密,砂礫白	灰釉灰色,白色釉	ロクロ成形,肥手断面扁平形,片口・肥手貼付,脚2箇定面貼付,流け掛け,縁受け部釉掻取り	
90	W	4号土坑		覆土	陶器	仏飯器	7.1	4.5	4.5	68.1	4/6	灰白色,やや粗	白化粧,透明釉	ロクロ成形,台脚貼付	
91	E	溝跡	西部	1・2層	陶器	上瓶蓋	7.3	2.9	2.3	29.1	5/6	明赤褐色,粗,長白黒	化粧有無不明,灰釉灰オリーブ色	ロクロ成形,底部糸切,穿孔,擬宝珠形摘み,内面露胎	色調・大きさから92のタイプの蓋か
92	E	溝跡	西部	1・2層	陶器	上瓶	7.2	7.6	9.8	257.2	4/6	にぶい橙色,粗,白黒	灰釉灰オリーブ色,内下半サビ化粧・灰釉,外,白化粧・鉄絵・灰釉・白色釉流し掛け	ロクロ成形,底部糸切,注口・肥手貼付,蓋しれ,3外から穿孔,内上半・外下端露胎,外側梅枝文	91の身か
93	E	溝跡	西部	1層	陶器	上瓶	長7.7	幅5.2	3.9 脚高3.2	75.1	1/6	灰白色,粗,雲白	外上半ルス釉,肥手緑釉	ロクロ成形,肥手貼付,下半露胎	板トチ痕上に直載,歪み
94	E	溝跡	西部	2層	陶器	急須	6.2	6.0	8.2	60.1	4/6	にぶい橙,精良	白化粧,灰釉いっちん	ロクロ成形,肥手貼付,外側梅枝文	
95	E	1号窯跡ＳＫ1		2層	陶器	散蓮華	長8.4	幅3.8	4.1	31.1	5/6	浅黄橙色,やや精良	鉄釉	手づくも成形,底部削上痕	肥手上端折損後釉付着か

表5　掲載遺物観察表（製品）

胎土含有物　雲母,石英,長石,角閃石,砂粒,礫,赤,赤色粒,白,白色粒,黒,黒色粒

掲載番号	調査区	遺構名	出土位置	層位	種類	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	重量(g)	残存率	胎土	釉薬	成形・調整・接続技法	
96	W	1号不明遺構			陶器	御猪口	5.2	3.4	3.4	45.8	6/6	にぶい橙色,粗,砂,白黒	鉄釉失透黒褐色	ロクロ成形,底回転糸切,縁み残し,活け掛け	内面施釉ムラ
97	E	溝跡	西部	1・2層	陶器	御猪口	5.2	3.5	3.0	40.4	6/6	明灰色,粗,白黒	鉄釉失透極暗赤褐色	ロクロ成形,底回転糸切,肥手輪状粘土盛り貼付,外下端～底釉掻取り露胎	
98	W	1号不明遺構			陶器	蓋	15.7	縁内4.7	4.0	204.7	4/6	にぶい褐,粗,石白	柿釉	ロクロ成形,受部露胎	
99	E	2号窯跡		下層	陶器	蓋	5.0	受部径6.8	2.5	35.6	6/6	焼成不良につき不明	焼成不良につき不明	ロクロ成形,底回転糸切,縁み残し,受部部抉り	
100	E	1号窯跡	周辺		陶器	蓋	7.8	5.4	1.9	52.3	6/6	にぶい赤褐色,やや粗,石長,砂白黒	伊羅保釉	ロクロ成形,内ロクロケズリ,蓋状,縁状,縁状貼付,内露胎	古瀬戸小西窯跡Ⅱ類双耳壺に似る
101	E	窯跡	周辺	横出面	上器	碗平	13.5	－	(5.5)	250.9	1/6	橙色,やや粗,雲母砂白	白緑色釉か	輪積成形,ロクロ整形,口縁内面菊花状突起3ヶ所貼付	釉不良,突起剥離
102	E	2号窯跡		下層	陶器	灯火具	5.5	4.2	4.5	67.3	4/6	にぶい橙色,やや粗,砂白黒	化粧鉄釉失透黒褐色	ロクロ成形,底回転糸切,底部穿孔,芯立貼付,台部露胎	
103	E	溝跡	西部		陶器	灯火具	5.7	4.0	4.7	96.8	6/6	灰白色,雲砂白	鉄釉不明	ロクロ成形,底回転糸切・穿孔,芯立貼付	施釉・焼成不良か
104	E	溝跡	西部	1層	陶器	灯火具	－	4.6	(4.5)	128.6	4/6	黒色,粗,白	鉄釉失透にぶい赤褐色	ロクロ成形,芯立貼付	外底窯跡付着,深い貫入,焼成不良
105	E	溝跡	東部		陶器	灯火具	4.4	3.2	3.4	39.0	5/6	明灰色,砂白	鉄釉失透黒褐色	ロクロ成形,底回転糸切・穿孔,芯立貼付,底部露胎	
106	E	窯跡	EWトレンチ		陶器	灯火具	5.0	3.8	3.8	51.9	4/6	黒褐色,やや粗,ややガラス質,砂	柿釉	ロクロ成形,底回転糸切・穿孔,芯立貼付	底部一部融付着
107	E	溝跡	西部		陶器	灯火具有脚受付面	4.5	－	(2.2)	50.9	杯部	にぶい赤褐色,粗,石長,砂,雲白黒	長石釉か失透灰白色	ロクロ成形,底面回転糸切後脚付接合か,手指による片口押出し	脚付欠損
108	E	調査区北壁			陶器	灯火具	－	5.0	(6.2)	97.9	4/6	にぶい黄橙色,石砂白	鉄釉失透黒褐色	ロクロ成形,底回転糸切,肥手輪状,外下端～底露胎	見込施釉ムラ
109	E	溝跡	西部	上層	陶器	灯火具	－	3.8	(6.9)	130.6	4/6	にぶい橙色,やや粗,石白黒	鉄釉黒色	ロクロ成形,底回転糸切・穿孔,芯立貼付,底部露胎	
110	E	溝跡	東部		陶器	灯火具	面径7.2	4.2	(3.7)	72.1	5/6	灰色,粗,赤白黒	鉄釉	ロクロ成形,底回転糸切,内・底部外露胎	
111	E	溝跡	西部	2・3層	陶器	香炉	11.2	7.2	8.6	316.5	5/6	橙色,やや粗,砂礫白黒	白化粧,肩部内～高台鉄釉,口縁うのふ釉流し掛け	ロクロ成形,肩出高台,体外4ヶ所縦位棒引形隆み,口縁うのふ釉流し掛け	見込輪状痕径4.3cm
112	E	溝跡	東部	上面	陶器	植木鉢	－	20.0	(8.4)	1,859.0	2/6	にぶい赤褐色,粗,石砂礫赤白黒	外・高台白化粧,灰釉灰オリーブ色	ロクロ成形,肩付鉢り3ヶ所,下部凸帯2条,内面露胎	費付窯跡付着,見込トチ痕
113	W	1号不明遺構			陶器	植木鉢	15.7	9.0	9.6	710.8	5/6	灰褐色,白	鉄釉黒褐色	ロクロ成形,肩出高台,底部中央穿孔,内面・高台露胎	
118	E	1区		耕土	窯道具	窯道具B2	孔径2.6	8.4	(4.7)	174.6	4/6	にぶい赤褐色,粗,石白黒		ロクロ成形	鉄釉土板状製品直載,上に円錐ピンで灰釉高台付鉢か鉢
119	E	1区		耕土	窯道具	棚板	長(8.5)	短(5.6)	(3.2)	115.2	－	にぶい橙色,非常に粗		成形不明	底外棚板付着,底内面銀製染付碗付高,体外鉄釉付着
120	E	1号窯跡		下層	窯道具	板トチA	外径7.0		0.9	27.8	1/6	にぶい橙色,粗		手づくね成形か,型も使用か	上面製品付着
121	E	溝跡	西部	2・3層	素焼	碗	12.0	6.0	8.8	200.4	5/6	にぶい橙色,雲長砂白		ロクロ成形,外下半～底ロクロケズリ	
122	E	窯跡	周辺	横出面	素焼	猪口	7.0	4.2	3.3	31.5	4/6	浅黄橙色,やや粗,雲砂礫赤白		ロクロ成形,ロクロケズリ	
123	E	溝跡	東部	下層	素焼	鉢	22.6	10.3	12.5	856.2	4/6	にぶい橙色,やや粗,やや軟,雲石長砂赤白黒		ロクロ成形,外下半～底ロクロケズリ	
124	E	溝跡	西部	2層	素焼	片口鉢	21.4	10.0	9.8	487.0	4/6	にぶい橙色,やや粗,雲長砂赤白		ロクロ成形,外下半ロクロケズリ,口縁下切抜き後注口貼付,注口ロクロ成形か	
125	E	溝跡	東部		素焼	擂鉢	32.5	14.0	16.0	1,527.7	4/6	にぶい橙色,粗,雲石砂赤白		ロクロ成形,外下半～底ロクロケズリ,卸目13本1単位,左回転2段階施文,上端ナデ揃え	
126	E	溝跡	東部	上面	素焼	擂鉢	32.2	14.8	15.0	1,854.0	4/6	橙色,粗,雲石長砂礫赤白		ロクロ成形,外下半～底ロクロケズリ,卸目13本1単位,上部卸目やや粗,上端ナデ消し,施文左回転2段階施文	
127	E	1号窯跡５Ｋ１		2層	素焼	擂鉢	20.0	8.8	10.3	197.8	2/6	橙色,やや粗,雲長砂白		ロクロ成形,口縁部,外下半～底ロクロケズリ,卸目櫛描,上端ナデ消し,単位不明	
128	E	溝跡	東部	最下層	素焼	鍋	15.4	6.4	7.4	232.8	5/6	淡橙色,雲長砂,赤白		ロクロ成形,外ロクロケズリ,外下端鍋鍔付後手指整形	

表6　掲載遺物観察表（製品）

胎土含有物　雲・雲母・石・石英・長石・角・角閃石・砂・砂粒・礫・赤・赤色粒・白・白色粒・黒・黒色粒

掲載番号	調査区	遺構名	出土位置	層位	種類	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	重量(g)	残存率	胎土	釉薬	成形・調整・焼成技法	備考
129	E	溝跡	西部	上層	素焼	鉢類	長(9.5)	幅10.3	厚1.0	88.2	3/6	に.ぶい橙色.黒.雲石長砂赤白		型成形.爪痕(4本1単位の櫛状工具による刺突.列に乱れ)	足込亀裂
130	E	溝跡	東部	最下層	素焼	灯火具	5.2	4.0	4.6	83.9	6/6	に.ぶい橙色.雲砂赤白		ロクロ成形.台部ロクロケズリ.底回転糸切・穿孔.芯立貼付	芯立亀裂
131	E	溝跡	東部	最下層	素焼	灯火具	7.0	3.0	4.1	71.2	6/6	に.ぶい橙色.雲砂赤白		ロクロ成形.台部・内ロクロケズリ.底回転糸切.芯立貼付	芯立剥離
132	E	1号窯跡		下層	土器	水滴か	長 (2.4)	幅2.9	(1.3)	2.8	2/6	に.ぶい橙色.黒.白.石砂		押型成形.内側丘痕.甲羅中央に孔.頭部貼付	
133	E	2号窯跡		上層	素焼	不明	—	13.4	(5.9)	64.5	1/6	灰黄褐色.やや暗.雲石角砂赤白		ロクロ成形	底外墨書「十口」
136	E	1号窯跡 SK4			素焼	上管	14.6	胴部外径13.4.内径11.6	(26.3)	886.8	—	に.ぶい.褐色.黒.雲石長赤白		輪積成形.型成形.口縁部折り返し.内側丘痕.ヨコナデ	底外中央有目痕.底外端部歪ね焼きによる剥離
137	E	2号窯跡	西部焼土		素焼	施文具	外径5.9	孔径0.9	2.0	87.8	6/6	灰白色.密.雲石長砂白		成形不明.ロクロ使用か.上下面ヘラ状工具による8分画.側面八重縦櫛状文.中心孔	孔周辺黒色化
138	W	1号不明遺構			陶器	瓦棒	4.3	丸底	8.8	161.1	5/6	灰色.やや軟.石白		ロクロ成形	底部外面使用による摩滅

表7　遺物観察表（窯道具）

胎土含有物　雲・雲母・石・石英・長石・角・角閃石・砂・砂粒・礫・赤・赤色粒・白・白色粒・黒・黒色粒

掲載番号	遺構名	出土位置	層位	分類	法量(cm) 口径	その他	底径	器高	重量(g)	残存率	胎土 含有物は通常以外のみ記載	成形・調整・焼成技法	備考
139	溝跡	西部		匣鉢	14.7		14.8	6.8	948.7	6/6	明褐色.黒.雲	匣鉢(ロクロ成形.底部成形不明.体外下端指圧痕3.見込指圧痕.輪トチ(棒状トチを輪状に成形)	底外・トチ上面釉付着
140	E区	東壁トレンチ	下層	匣鉢	13.8		15.1	6.1	544.1	4/6	橙色.黒	ロクロ成形.底部成形不明	底外中央有目痕.底外端部歪ね焼きによる剥離
141	溝跡	東部	上面	匣鉢	—		16.7	(6.7)	796.8	5/6	に.ぶい橙色.黒	ロクロ成形.底回転糸切後.型成形.体外下端指圧痕	底外中央有目痕.見込球状工具挿入
142	溝跡	東部	最下層	匣鉢	14.5		15.7	6.8	884.5	6/6	に.ぶい橙色.非常に黒	ロクロ成形.底型成形.体外下端指圧痕5	口縁上面・底部歪ね焼き痕
143	溝跡	東部	最下層	匣鉢			(23.0)	10～12	2,741.3	3/6	に.ぶい橙色.黒	粘土紐巻上成形.ロクロ整形	底外墨体付着
144	2号窯跡		下層	匣鉢	19.2		20.2	17.4	1,700.0	2/6	灰白色.黒.雲	粘土紐巻上成形.ロクロ整形.底外刷毛目.口縁抉り.体外下端指圧痕	体外白然釉・被熱.黒釉付着
145	1号窯跡		最下層	匣鉢	20.7		22.0	15.6	1,848.2	2/6	に.ぶい橙色.黒	粘土紐巻上成形.ロクロ整形.底部成形不明	見込釉付着
146	2号窯跡		下層	匣鉢	24.0		24.5	18.4	5,800.0	5/6	に.ぶい橙色.黒	粘土紐巻上成形.ロクロ整形.底部成形不明.口縁抉り.体外下端指圧痕	体外白然釉・被熱.黒釉付着
147	2号窯跡		下層	匣鉢	23.3		25.2	19.2	6,000.0	6/6	に.ぶい橙色.黒	粘土紐巻上成形か.ロクロ整形.底部成形不明.口縁抉り.見込トチ6.口縁上面トチ痕	釉付着.体外白然釉・被熱
148	溝跡	西部	2層	匣鉢	23.4		—	(15.5)	805.1	1/6	に.ぶい.赤褐色.黒	成形不明.ロクロ整形.口縁上面輪トチ付着	
149	1号窯跡			匣鉢	24.0		21.2	19.0	987.6	2/6	に.ぶい橙色.黒	粘土紐巻上成形.ロクロ整形.底部成形不明.体下部穿孔1.体外下端指圧痕.口縁上面・底外トチ	体外白然釉・被熱
150	2号窯跡		下層	匣鉢	31.5		32.4	18.0	7,600.0	5/6	に.ぶい橙色.黒	粘土紐巻上成形.ロクロ整形.底部成形不明.口縁抉り1	体部内外被熱2ヵ所
151	2号窯跡		下層	匣鉢	33.3		33.0	15.9	8,500.0	6/6	灰白色.黒	粘土紐巻上成形.ロクロ整形.底外縦櫛状.口縁抉り1	口縁上面・底外端部窯砂付着.体外一部被熱で白色化
152	溝跡	西部	上面	匣鉢	34.0		32.0	17.5	3,400.0	2/6	淺黄橙色.黒	粘土紐巻上成形.ロクロ整形.底外縦櫛状.口縁抉り.底外・口縁トチ痕	内外スス
153	2号窯跡		下層	窯道具A	上面径10.4	孔径6.0	10.4	5.5	149.7	3/6	黒褐色.やや軟	ロクロ成形.孔切抜き.脚2(推定7)抉り成形	上面黒釉製品板径9.5cm.底釉流下.上面縁辺一円面白然釉.脚端部欠損
154	E2区		排土	窯道具A	上面径11.8	孔径6.2	11.0	5.2	134.6	2/6	黒褐色.黒	ロクロ成形.孔切抜き.脚2(推定6)抉り成形	上面灰釉製品・トチ付着.脚端部釉剥離
155	E2区		排土	窯道具A	上面径13.1	孔径3.5	12.5	4.0	640.5	5/6	淺黄橙色.黒	ロクロ成形.孔切抜き.脚4(推定6)抉り成形	上面に窯具Dが付着.脚付着.脚端部欠損
155	E2区		排土	窯道具D	外径12.5	孔径1.8	12.0	1.5		6/6	明赤褐色.黒	ロクロ成形.孔切抜き	釉付着

表8　掲載遺物観察表（窯道具）

胎土含有物　雲:雲母,石:石英,長:長石,角:角閃石,砂:砂粒,礫:赤:赤色粒,白:白色粒,黒:黒色粒

掲載番号	遺構名	出土位置	層位	分類	法量(cm) 口径	その他	底径	器高	重量(g)	残存率	胎土 含有物は通常以外のみ記載	成形・調整・焼成技法	備考
156	2号窯跡		下層	窯道具A	上面径18.1	孔径4.8	19.0	3.8	619.8	6/6	灰白色,粗	ロクロ成形か,孔切抜き脚7段り成形,上面端部指圧痕4	上面製品痕,脚端部欠損
157	窯跡	周辺	上層	窯道具B1	上面径8.0	孔径2.2	8.0	2.3	134.7	6/6	にぶい橙色,粗	ロクロ成形,孔切抜き	
158	1号窯跡		下層	窯道具B1	上面径9.0	孔径5.0	9.8	2.2	24.7	1/6	にぶい赤褐色やや粗	ロクロ成形,上面回転糸切,孔切抜き	自然釉
159	1号窯跡		上層	窯道具B1	上面径17.3	孔径4.6	19.6	5.2	478.2	3/6	橙色,粗	ロクロ成形,上面回転糸切・端部指圧痕	激しく被熱,窯床面に配置か
160	1号窯跡			窯道具B1	上面径13.8	孔径9.0	15.4	5.8	371.2	3/6	にぶい黄橙色,粗	ロクロ成形,孔切抜き,上面端部指圧痕	上面製品付着,底部トチ付着,鉄釉流下
161	E 25区		排土	窯道具B2	上面径7.4	孔径3.2	8.8	1.6	38.3	3/6	にぶい橙色,やや粗,雲母	ロクロ成形,孔切抜き	
162	1号窯跡			窯道具B2	上面径9.8	孔径2.2	9.6	2.5	67.2	1/6	黒色,粗	ロクロ成形,孔切抜き	上面重ね焼き痕,底部窯砂付着,鉄釉付着
163	窯跡		上層	窯道具B2	上面径14.8	孔径4.4	13.0	6.8	152.7	1/6	黒褐色,粗	ロクロ成形	上面トチ痕外面白然釉
164	溝跡	東部	下・最下層	窯道具B2	上面径15.0	—	16.0	3.0	49.0	1/6	灰褐色やや粗	ロクロ成形,上面回転糸切・端部指圧痕	上面・底部製品痕
165	窯跡	周辺	上層	窯道具B3	上面径11.2	孔径3.2	10.2	1.9	160.6	6/6	にぶい橙色,やや粗	ロクロ成形,孔切抜き	
166	窯跡	EWトレンチ		窯道具B3	上面径9.4	孔径4.8	10.4	2.0	70.9	4/6	にぶい橙色,粗	ロクロ成形,孔切抜き	
167	1号窯跡		下層	窯道具B3	上面径8.0	孔径4.0	10.5	1.9	40.5	3/6	にぶい褐色,やや粗	ロクロ成形,孔切抜き	
168	2号窯跡		下層	窯道具B3	上面径9.0	孔径4.0	9.8	2.8	60.0	3/6	黒褐色	ロクロ成形	上面製品痕径8.0cm,外下部鉄釉付着
169	1号窯跡		下層	窯道具B3	上面径6.6	孔径4.0	8.8	2.3	43.7	3/6	にぶい赤褐色,やや粗	ロクロ成形,孔切抜き	上面・底部製品痕,自然釉
170	窯跡	EWトレンチ		窯道具B4	上面径10.2	孔径5.2	10.5	3.1	101.2	4/6	にぶい赤褐色,粗	ロクロ成形,孔切抜き	
171	溝跡	東部	上面	窯道具B4	上面径9.0	孔径5.4	10.4	3.2	46.1	1/6	褐色,やや粗	ロクロ成形,孔切抜き	
172	溝跡	西部		窯道具B5	上面径13.4	孔径6.0	12.0	3.5	208.8	3/6	にぶい赤褐色,やや粗	ロクロ成形,孔切抜き	上面製品痕,鉄釉付着
173	1号窯跡		下層	窯道具C	上面径8.2	孔径5.6	9.0	3.4	49.6	3/6	にぶい黄橙色,雲母	ロクロ成形,孔切抜き,円錐ピン1,ピン痕1(推定脚数4～5)	上面製品痕,上面焼き自然釉,鉄釉付着
174	1号窯跡		下層	窯道具C	上面径7.6	孔径5.0	7.6	2.7	12.3	1/6	灰褐色	ロクロ成形,孔切抜き,円錐ピン1	自然釉
175	窯跡	EWトレンチ		窯道具D	外径8.1	孔径1.4～1.8		0.9	69.0	6/6	橙色	ロクロ成形,端部欠損,回転糸切,孔切抜き	自然釉,端部欠損・窯砂付着
176	窯跡	EWトレンチ		窯道具D	外径8.6	孔径1.4		1.4	115.8	5/6	橙色	ロクロ成形,片面回転糸切,孔切抜き	上下面重ね焼き痕径5cm,端部欠損
177	窯跡	EWトレンチ		窯道具D	外径7.0	孔径1.3		0.7	44.4	6/6	にぶい橙色	ロクロ成形,上下面回転糸切,孔切抜き	自然釉,端部欠損
178	E 15区		排土	窯道具D	外径12.5	孔径2.0		1.5	249.9	6/6	浅黄橙色,やや粗	ロクロ成形,孔切り取り片面回転糸切	上下面鉄釉付着
179	2号窯跡		下層	窯道具D	外径23.2	孔径6.2		1.7	478.8	3/6	浅黄橙色,粗	成形不明,孔切抜き	
180	窯跡		検出面	窯道具D	外径7.8	孔径1.7		1.3	91.1	6/6	断面見えず不明,やや粗	ロクロ成形,片面回転糸切後外周回転ナデ	
181	1号窯跡		下層	窯道具E	8.0	孔径3.2	5.0	6.5	181.4		橙色,粗	ロクロ成形,底回転糸切	口縁上面径6.5cmの高台痕,胴部釉付着
182	E 1・2区		検出面	窯道具E	(7.5)	孔径3.8	5.4	(6.7)	147.0	4/6	にぶい橙色,粗	ロクロ成形	上面製品付着径7.0cm,鉄釉・白色釉付着,外下端釉・窯砂付着
183	溝跡	西部		窯道具E	孔径9.6		5.6	6.3	170.6	5/6	灰褐色,粗	ロクロ成形,底回転糸切	口縁外周製品痕・剥離,底外窯砂付着
184	2号窯跡		下層	窯道具G	上面径18.8	底部孔径14.0	25.0	7.0	756.9	3/6	灰白色,粗	ロクロ成形,底部切抜き,上面トチ	
185	溝跡	東部	上面	窯道具G	上面径18.2	底部孔径13.0	25.7	7.5	503.8	1/6	灰白色,非常に粗	ロクロ成形,底部切抜き	
186	1号窯跡	周辺	上層	窯道具G	上面径18.0	底部孔径11.4	25.0	6.2	339.7	1/6	灰白色,非常に粗	ロクロ成形,底部切抜き	
187	窯跡		上層	窯道具H	上面径8.5		8.5	7.6～8.5	520.6	6/6	にぶい黄橙色,非常に粗	粘土紐巻上成形か,ロクロ整形,上下面トチ	
188	溝跡	東部	上面	窯道具H	上面径7.3		7.6	10.5	531.1	6/6	にぶい黄橙色,非常に粗	ロクロ成形か	被熱により脆弱
189	1号窯跡		下層	板トチA	外径7.8			1.0	52.0	4/6	にぶい橙色,粗	成形不明	上面製品痕径4.0cm
190	溝跡	東部	上面	板トチA	外径7.1			1.2	49.3	6/6	にぶい褐色,非常に粗	手づくね成形か,型も使用か	上面製品痕径3.5cm・6.0cm
191	溝跡	西部		板トチA	外径6.3			1.2	41.1	5/6	浅黄橙色,粗	型成形か	上面製品痕

表9　掲載遺物観察表（窯道具）

胎土含有物　雲:雲母,石:石英,長:長石,角:角閃石,砂:砂粒,礫:小礫,赤:赤粒,白:白色粒,黑:黒色粒

掲載番号	遺構名	出土位置	層位	分類	法量(cm) 口径	その他	底径	器高	重量(g)	残存率	胎土 含有物は通常以外のみ記載	成形・調整・焼成技法	備考
192	溝跡	西部	上面	板トチA	長(7.4)	短6.6		1.0	51.2	5/6	にぶい褐色,やや粗,針状物質	手づくね成形か,型も使用か,下面指圧痕	上面円形線状痕複数
193	溝跡	西部		板トチB	外径5.2			0.4	21.9	6/6	にぶい褐色,やや粗	手づくね成形か	上面鉄釉製品径4.3cm
194	1号窯跡		下層	板トチB	外径6.0			0.7	32.8	6/6	にぶい褐色,やや粗,雲	たたら成形か	
195	1号窯跡		下層	板トチB	外径7.7			0.5	33.0	5/6	にぶい褐色,粗,針状物質	たたら成形か,片面静止糸切	
196	溝跡	西部トレンチ1		板トチB	外径4.7			0.6	18.4	6/6	にぶい褐色,やや粗	成形不明,下面線状痕	上面製品径3.0cm,下面白色鬼岡焼4.3cm
197	1号窯跡	EWトレンチ		板トチB	外径6.4			0.6	35.6	6/6	にぶい褐色,やや粗	たたら成形か,上下面静止糸切,不定方向刷毛目	上面製品径3.5cm
198	1号窯跡		下層	板トチB	外径8.6			0.6	31.9	3/6	にぶい橙色,粗,針状物質	たたら成形か,片面静止糸切,外周指圧痕	
199	溝跡	西部		板トチC	外径9.6			1.2	99.6	4/6	浅黄橙色,粗	成形不明	片面褐熱
200	2号窯跡	東壁トレンチ		板トチD	外径5.3			1.2	21.3	5/6	灰褐色,やや粗,雲	手づくね成形か,脚貼付,円錐形脚1(推定3)	脚部緑色釉付着
201	窯跡	EWトレンチ		板トチD	外径5.0			(1.7)	8.5	2/6	黒褐色,粗	成形不明,脚1,脚貼付痕(推定3～4)	上面製品付着,鉄釉付着
202	E区		排土	輪トチ	外径7.1	内径4.7		1.1	37.7	5/6	にぶい褐色,粗	手づくね成形,最状貼上を輪状に接合,断面円形	上面製品径6.5cm
203	2号窯跡		上層	輪トチ	外径7.4	内径4.2		0.9	50.9	6/6	灰褐色,やや粗	手づくね成形,最状貼上を輪状に接合,断面隅丸方形	上下面製品径6.6cm・7.2cm
204	1号窯跡			輪トチ小	外径7.6	内径4.7		1.5	21.8	2/6	にぶい黄橙色	手づくね成形,最状貼上を輪状に接合,断面円形	
205	溝跡	西部		輪トチ	外径7.7	内径5.0		0.8	34.0	4/6	灰褐色,粗	手づくね成形,不整円形,押圧により扁平に	
206	窯跡		上層	輪トチ	外径11.0	孔径5.0		2.0	98.7	3/6	にぶい褐色,やや粗	成形不明,ロクロ整形	下面トチ付着,上面製品付着,鉄釉流下
207	1号窯跡			輪トチ大	外径18.0	内径11.6		1.3	119.9	2/6	にぶい褐色,粗	成形不明,断面不整台形	上面指圧痕か製品痕
208	E区		表採	輪トチ	外径11.0	内径5.0		3.3	59.3	1/6	にぶい褐色,粗	成形不明,断面隅丸方形	上面鉄釉高台付着,内面鉄釉,外面青色釉
209	溝跡	西部	上面	脚付輪トチA	外径4.0	内径1.0～1.5		2.1	21.7	6/6	断面見えず不明,粗	手づくね成形,最状貼上輪状に接合,脚貼付後指整形,四角錐形脚3	
210	E区		排土	脚付輪トチA	外径5.2	内径1.7		1.2	22.4	6/6	にぶい赤褐色,やや粗	手づくね成形,最状貼上輪状に接合,脚貼付後指整形,四角錐形脚3	脚部粘土細かい,脚端部剥離,釉付着
211	溝跡	東部	上面	脚付輪トチA	外径5.3	内径1.4		1.2	24.5	6/6	断面見えず不明,やや粗	手づくね成形,最状貼上輪状に接合,脚貼付後指整形,四角錐形脚3	脚部粘土細かい,脚端部剥離,釉付着,上面製品径4.0cm
212	E区		排土	脚付輪トチA	外径7.0	内径2.5		1.3	48.7	6/6	にぶい橙色,やや粗	手づくね成形,最状貼上輪状に接合,脚貼付後指整形,四角錐形脚3	脚部粘土細かい,脚端部剥離,釉付着
213	窯跡	EWトレンチ		脚付輪トチA	外径6.7	内径2.1		1.6	28.6	3/6	灰褐色,粗	手づくね成形,最状貼上輪状に接合,略方形,脚貼付後指整形,四角錐形脚2(推定4)	脚部粘土細かい
214	溝跡	西部	2層	脚付輪トチA	外径5.6	内径2.1		1.3	26.5	6/6	橙色,やや粗	手づくね成形,最状貼上輪状に接合,脚貼付後指整形,四角錐形脚3	脚部粘土細かい,脚端部剥離,釉付着
215	溝跡	西部	2層	脚付輪トチA	外径7.6	内径4.9		1.5	26.7	5/6	にぶい赤褐色,粗	手づくね成形,最状貼上輪状に接合,脚貼付後指整形,四角錐形脚3(推定4)	輪トチ部ごみ,脚端部釉付着
216	1号窯跡	周辺		脚付輪トチA	外径8.6	内径4.3		1.5	54.2	4/6	にぶい褐色,やや粗	手づくね成形,最状貼上輪状に接合,脚貼付後指整形,四角錐形脚4(推定5)	脚端部欠損,脚部粘土細かい
217	1号窯跡		最下層～床	脚付輪トチA	外径11.0	内径4.8		1.9	133.4	5/6	にぶい褐色,粗	成形不明,脚貼付,円錐形脚1,脚端3(推定5)	上面磁器片付着
218	溝跡	西部	1層	脚付輪トチB	外径4.2	内径1.0		1.3	16.3	6/6	にぶい橙色,粗	手づくね成形,脚摘み成形,脚5	脚端部欠損
219	溝跡	西部	1層	脚付輪トチB	外径6.3	内径3.5		1.2	33.9	6/6	にぶい赤褐色,やや粗	手づくね成形,脚摘み成形,脚5	自然釉,脚端部欠損
220	1号窯跡		下層	脚付輪トチB	外径7.0	内径2.6～2.8		1.2	43.5	5/6	にぶい赤褐色,やや粗	手づくね成形,脚摘み成形,脚5	脚端部鉄釉付着
221	溝跡	西部	1層	脚付輪トチB	外径9.8	内径6.8		1.2	61.3	6/6	断面見えず不明,やや粗	手づくね成形,脚摘み成形,脚5	上面製品径8.0cm
222	溝跡	東部	上面	脚付輪トチC	長(4.2)			1.5	16.8	1/6	にぶい橙色,やや粗	手づくね成形,脚1	外径12cm前後か

表 10　掲載遺物観察表（窯道具）

胎土含有物　雲:雲母,石:石英,長:長石,角:角閃石,砂:砂粒,礫:赤:赤色粒,白:白色粒,黒:黒色粒

掲載番号	遺構名	出土位置	層位	分類	法量(cm) 口径	その他	底径	器高	重量(g)	残存率	胎土 含有物は通常以外の補記	成形・調整・焼成技法	備考
223	溝跡	西部	2層	脚付ハマか	外径9.2		4.7	1.1	67.7	3/6	にぶい赤褐色,粗	ロクロ成形,底回転糸切,下面円錐ピン痕2	上面製品付着径5.3cm,外縁に製品付着,歪み
224	溝跡	西部	3層	脚付ハマ	外径8.3		4.2	1.1	51.6	4/6	橙色,粗	ロクロ成形,底回転糸切,脚貼付,円錐形脚,脚端4(撫定5)	上面製品痕径5.2cm,脚端部欠損
225	2号窯跡	焼成室	上層	焼台	上面径12.2	孔径3.4	—	径5	228.3	1/6	にぶい赤褐色,粗	ロクロ成形,上面回転糸切,孔切抜き	上面製品痕・鉄釉付着,上面内鉄釉付着
226	窯跡	EWトレンチ		焼台	上面径11.0		12.8	7.7	1,176.9	6/6	暗赤褐色,非常に粗	型成形	被熱により脆弱,底外以外白然釉
227	1号窯跡		下層	トチ	長(7.8)	幅1.2		0.6	10.1	—	にぶい黄橙色,やや粗	すごくね成形,細状粘土を接合,断面楕円形	不整円形
228	1号窯跡		下層	トチ	外径10.0	内径8.0		0.9	17.1	2/6	にぶい橙色	すごくね成形,細状粘土を輪状に接合,断面円形	不整円形
229	2号窯跡		下層	トチ	長(7.8)	幅2.8		1.0	34.2	—	橙色,やや粗	成形不明	片面スス付着
230	1号窯跡		下層	トチ	長(6.0)	幅2.8		1.7	34.7	—	にぶい黄橙色,粗	すごくね成形	
231	2号窯跡		上層	トチ	長5.5	幅2.7		0.8	12.2	6/6	にぶい黄橙色	すごくね成形か	
232	2号窯跡		上層	トチ	長(10.5)	幅2.9		1.4	62.2	—	すごくね成形,円形か,弧状のトチ	すごくね成形	上面製品痕径8.0cm
233	E25区		掘上	平球トチ	上面径2.7			1.0	6.7	6/6	にぶい赤褐色,やや粗	型成形か	底部製品痕・白色釉
234	E11区		掘上	トチ	長2.8	短1.8		1.9	3.3	6/6	にぶい黄橙色	すごくね成形,四角錐形	端部製品付着
235	窯跡		上層	トチ	長3.0	短2.0		2.1	6.2	6/6	にぶい黄橙色,粗	すごくね成形,四角錐形	端部剥離
236	2号窯跡		下層	ニギリ	幅2.5			5.4	44.2	6/6	にぶい橙色	すごくね成形	上下面使用により変形
237	1号窯跡		下層	ニギリ	幅3～3.5			3.7	32.0	6/6	にぶい褐色	すごくね成形,トチ付着	上下面使用により変形,下面鉄釉付着,外面灰釉流下
238	1号窯跡		下層	団子トチD	長2.7	短2.5		1.2	8.0	6/6	浅黄橙色,非常に粗	すごくね成形	
239	1号窯跡		下層	団子トチG	長3.2	短2.9		1.9	16.9	6/6	にぶい橙色,非常に粗	すごくね成形	上面鉄釉付着
240	保護対象範囲	北斜面	表採	団子トチD	長2.8	短2.8		1.0	9.8	6/6	明赤褐色,胎土異なる,雲	すごくね成形	
241	2号窯跡		上層	団子トチG	長3.5	短3.2		2.6	28.6	6/6	にぶい橙色,粗	すごくね成形	下面鉄釉付着
242	溝跡	西部	上面	団子トチC	長4.6	短4.0		2.9	45.8	6/6	にぶい橙色,やや粗,雲	すごくね成形	上面高台痕
243	窯跡		上層	団子トチC	長4.4	短3.8			51.1	6/6	灰黄褐色,粗	すごくね成形	未使用か
244	1号窯跡		下層	団子トチB	長5.8	短5.5		2.5	64.9	6/6	浅黄橙色,粗	すごくね成形	上面高台痕幅2.6cm
245	窯跡	周辺	上層	不明	長4.3	短3.8		2.1	20.3	6/6	にぶい赤褐色	すごくね成形,不整円形,深さ1.8cmの溝	
246	2号窯跡		下層	団子トチ	長6.4	短4.7		3.5	116.4	6/6	にぶい橙色,やや粗	すごくね成形,指圧痕	上面高台痕
247	窯跡		上層	団子トチA	長6.4	短5.8		1.8	60.4	6/6	にぶい黄橙色,粗	すごくね成形	側面剥日痕,擂鉢に使用
248	窯跡		上層	団子トチB	長5.0	短4.6		3.4	58.8	6/6	灰白色,粗	すごくね成形	上面高台痕
249	窯跡		上層	団子トチB	長5.1	短5.0		2.8	58.6	6/6	灰白色,粗	すごくね成形	上面剥離,側・下面剥日痕,擂鉢に使用
250	窯跡	EWトレンチ		団子トチB	長5.4	短4.8		3.1	62.7	5/6	浅黄橙色,粗	すごくね成形	二つ重ねて使用
251	E25区		掘上	団子トチB	長5.8	短5.2		3.0	68.3	6/6	浅黄橙色,粗	すごくね成形	二つ重ねて使用
252	窯跡		上層	団子トチB	長5.2	短5.0		3.5	51.4	6/6	灰白色,粗	すごくね成形	上面高台痕幅2.6cm,下面剥日痕,擂鉢に使用
253	1号窯跡		下層	団子トチB	長5.2	短4.7		3.3	59.3	6/6	浅黄橙色,粗	すごくね成形	上面高台痕幅1.5cm
254	1号窯跡	南北トレンチ	上層	団子トチB	長5.4	短4.5		3.9	58.4	6/6	浅黄橙色,粗	すごくね成形	上面高台痕幅2.0cm・下面剥日痕,擂鉢に使用
255	1号窯跡		上層	団子トチG	長3.5	短3.4		2.9	26.2	6/6	浅黄橙色,粗	すごくね成形	
256	E25区		掘上	団子トチC	長4.9	短3.6		3.9	42.3	6/6	橙色,粗,雲	すごくね成形	
257	1号窯跡		上層	団子トチG	長4.0	短3.3		3.2	30.4	6/6	にぶい黄橙色,非常に粗	すごくね成形	下面剥離
258	溝跡	西部	上面	団子トチG	長3.6	短2.8		3.2	32.3	6/6	浅黄橙色,非常に粗	すごくね成形	
259	1号窯跡		下層	団子トチF	長6.6	短4.5		3.5	66.9	6/6	灰褐色,粗	すごくね成形	二つのトチが焼着,離土・灰釉・鉄釉付着
260	窯跡		上層	団子トチA	長5.6	短4.2		2.0～4.3	69.9	6/6	橙色,粗	すごくね成形	
261	窯跡		上層	団子トチG	長3.8	短2.9		2.6	23.8	5/6	にぶい橙色	すごくね成形	上下面鉄釉・灰釉付着

表 11　掲載遺物観察表（W区掲載遺物）

胎土含有物　雲母,石英,長石,石英,長石,石角閃石,砂,砂粒,礫,赤 赤色粒,白 白粒,黒,黒色粒

掲載番号	遺構名	層位	種類	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	重量(g)	残存率	胎土	釉薬	成形・調整・痕成技法	備考
266	1号土坑	最下層	磁器染付	碗蓋	9.1	抽み径3.6	2.9	29.7	2/6	灰白色精良,硬質,ガラス質	呈淡明青色,透明釉	ロクロ成形,縁み端部鋸跡,外側・見込み水縞圏文	瀬戸美濃系
267	1号土坑	最下層	磁器染付	碗	—	4.8	6.4	97.2	2/6	灰色,やや粗,白粒	白化粧,呈淡淡青色,透明釉	ロクロ成形,貫付高台	美濃焼か,施釉深さ不定
268	1号土坑	最下層	陶器	碗	10.0	—	5.0	119	1/6	にぶい黄橙色,密	内面化粧,外 文様鉄絵・白化粧,内外,透明釉	ロクロ成形,外側角度文	瀬戸古瀬戸か,型19C中
269	1号土坑	下層・覆土	陶器	碗	6.9	3.2	5.2	48.6	4/6	灰白色,精良	内白色粒,透色,鉄釉,透色	ロクロ成形,刷出高台,体外下一底露胎	産地不明,近世～近代
270	1号土坑	最下層	磁器染付	皿	12.2	6.5	2.7	209.5	6/6	灰白色,精良,硬質,やや光沢	白化粧,呈淡明青色,透明釉	ロクロ成形,蛇ノ目凹型高台,高台露胎,外側宝文か唐草文,内側松梅文・側面見込側梅や枝梅文	施釉ムラ,美濃焼
271	1号土坑	最下層	土器	火消壺蓋	36.9	—		11.6	2,180.0	5/6	にぶい黄橙色,やや粗,密,白粒,赤白	ロクロ成形,肥手削りナデ成形,貼付	
272	2号土坑		陶器	碗	10.3	4.6	7.4	179.0	5/6	灰白色	灰釉	ロクロ成形,貫付高台	内又又,肥前系,18C代
273	4号土坑		陶器	碗	9.1	3.2	5.7	83.1	4/6	灰白色,精良,やや硬質	灰釉,外側鉄絵	ロクロ成形,刷出高台,外側草花文(体外下一底露胎	京焼系,18C後
274	4号土坑		陶器	碗	9.4	2.8	5.5	45.6	3/6	灰白色,精良,やや硬質	灰釉,見込み中間,外側色絵(緑色・赤色釉)	ロクロ成形,刷出高台,高台露胎,外側草花文	京焼系,18C後
275	4号土坑		土製	内耳鍋	10.2	26.2	5.6	990.5	5/6	灰白色,白色		貼土鍋巻上成形,底部ヘラ切,口ヒ縁形,耳貼付	内外又又付着
276	1号不明遺構		磁器染付	碗	11.0	3.8	6.0	146.1	6/6	白色精良,ガラス質,硬質	呈淡濃青色,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,型紙刷,見込一重圏線内松竹梅文,口縁内壁染文外側点描地松文・丸窓内雁木文外側下端露胎芋文	瀬戸美濃系,19C4/4～20C1/4
277	1号不明遺構		磁器染付	碗	10.9	3.5	5.0	144.8	6/6	白色精良	呈淡明濃青色,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,型紙刷,外側点描地・菊花文・雷文体外下端露胎芋文,口縁内壁染文見込一重圏線内松竹梅文	瀬戸美濃系,19C4/4～20C1/4
278	1号不明遺構		磁器染付	碗	11.4	4.0	6.0	190.7	5/6	白色精良,ガラス質,硬質	呈淡明濃青色,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,型紙刷,外側点描地・青海波文・松文,口縁内壁染文見込一重圏線内松竹梅文	瀬戸美濃系,19C4/4～20C1/4
279	1号不明遺構		磁器染付	碗	12.6	4.4	5.3	95.2	4/6	白色精良,硬質	呈淡明青色,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,内外地平鑢子・菱文・鎧文,高台内露	瀬戸美濃系か,近代
280	1号不明遺構		磁器染付	碗	11.3	3.5	4.4	117.8	5/6	白色精良,ガラス質,硬質	呈淡濃青色,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,外側縞文,高台縞圏線	瀬戸美濃系,近代
281	1号不明遺構		クロム青磁	碗	9.8	3.2	4.1	56.9	3/6	白色精良,ガラス質,硬質	外緑色釉・鉄釉・クロム青磁,内,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,外側草文	瀬戸美濃系か,近代
282	1号不明遺構		磁器染付	碗	8.3	3.2	4.7	57.6	3/6	白色精良,ガラス質,硬質	呈淡明青色,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,外側草文・鎧文,体外下端露胎芋か・二重圏線	産地不明,近代
283	1号不明遺構		磁器染付	碗	7.7	2.9	3.7	48.5	5/6	白色精良,硬質	呈淡明青色,透明釉	ロクロ成形,蛇ノ目高台,高台露胎,内外横線文	瀬戸美濃系,19C中後
284	1号不明遺構		クロム青磁	碗	9.9	4.4	5.1	117.0	4/6	白色精良,ガラス質	緑色釉,呈淡,クロム青磁	ロクロ成形,貫付露胎,圏線縞文,クロム呈淡	高台内「□□」陶銘場」,外側「摩三段所」,近代
285	1号不明遺構		磁器	碗	8.2	3.6	4.9	52.1	3/6	白色精良,硬質	褐色・緑色釉,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,圏線転写,外側草花文か	産地不明,20C1/4～3/4
286	1号不明遺構		磁器染付	碗	6.8	3.4	3.8	50.1	4/6	白色精良,ガラス質,硬質	呈淡濃青色,緑色釉,透明釉	ロクロ成形,蛇ノ目高台,貫付露胎,口縁・体外下一高台圏線,外側竜もち手,高台内露	瀬戸焼19C代
287	1号不明遺構		磁器染付	湯呑	6.0	3.8	6.9	137.4	6/6	白色精良,ガラス質,硬質	鉄釉,緑色釉,赤色釉,透明釉	ロクロ成形,高台露地,貫付露胎,口縁鉄釉,外側輪文・竹文,高台側面文,高台内露,二重圏匠「竜頭」	産地不明,近代
288	1号不明遺構		磁器染付	湯呑	5.8	4.0	6.9	167.0	6/6	白色精良,硬質	呈淡明青色,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,文様手描き外側竹井亦平文・蔦模文・圏線,高台縞線文,圏線,内側山水楼閣文,高台内露	産地不明,近代
289	1号不明遺構		磁器染付	小杯	6.4	2.2	2.8	23.1	4/6	白色精良,ガラス質,硬質	呈淡明青色,透明釉,金彩	成形不明,貫付露胎,見込「西口五郎」・「配」・花文金彩上絵	瀬戸美濃系か,近代
290	1号不明遺構		磁器染付	小杯	8.0	3.0	3.0	19.0	2/6	白色精良,ガラス質,硬質	透明釉,金彩	成形不明,貫付露胎,見込「西口五郎」・「配」・花文金彩上絵	瀬戸美濃系か,近代
291	1号不明遺構		磁器染付	小杯	6.7	2.3	3.1	31.9	4/6	白色精良,ガラス質,硬質	呈淡濃青色,透明釉,金彩	成形不明,高台側線廻文見込詩歌金彩上絵,高台内露	瀬戸美濃系か,近代
292	1号不明遺構		磁器染付	皿	13.5	6.6	3.0	123.5	3/6	白色精良,硬質	呈淡明濃青色,透明釉	ロクロ成形,口縁輪花,蛇ノ目凹型高台,高台露地,型紙刷,外側竹草文,内側点描地・松花文,梅只文,内松竹梅文	美濃焼知地区高屋ケ洞窯か,19C4/4～20C1/4
293	1号不明遺構		磁器染付	皿	13.0	6.6	2.0	59.8	2/6	白色精良	呈淡明青色,透明釉	ロクロ成形,蛇ノ目凹型高台,高台露地,型紙刷,外側圏線,不明文,内側点描地・竹梅文,見込松竹梅文	薄手,産地不明,19C4/4～20C1/4
294	1号不明遺構		磁器染付	皿	10.7	6.8	2.0	92.7	5/6	白色精良,硬質,ガラス質	呈淡明青色,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,型紙刷,内側点描地・青海波文・地平鑢文,底面内梅花文・鎧文,見込橘対文・鎧文・平菊文・菊花文	295と同系統の型紙,瀬戸美濃系,19C4/4～20C1/4
295	1号不明遺構		磁器染付	皿	10.7	6.2	1.8	98.0	5/6	白色精良,硬質,ガラス質	呈淡明濃青色,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,型紙刷,内側点描地・地平鑢文,底面内花文・鎧文,見込橘対文・鎧文・平菊文・菊花文	294と同系統の型紙,外面底面線行道,瀬戸美濃系,19C4/4～20C1/4
296	1号不明遺構		磁器染付	皿	12.4	7.7	2.3	100.1	3/6	白色精良,硬質	青色・緑色釉,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,圏線転写,外側風景,内人物・馬・風景	産地不明,20C1/4～
297	1号不明遺構		磁器染付	皿	11.2	5.5	2.6	114.3	6/6	白色精良,硬質	多色釉,透明釉	成形不明,貫付露胎,高台内外圏線,内花文・ぼかし	産地不明,20C1/4～
298	1号不明遺構		磁器染付	鉢	16.6	8.2	6.7	242.7	3/6	白色精良	呈淡濃青色,透明釉	ロクロ成形,高台内露胎,縁端文様外側竹井亦平文,内側唐草文・鎧文・牡丹文,見込一重圏線内寸の橘文	高台内型銘其屋肥前系,19C前半
299	1号不明遺構		磁器染付	鉢	14.8	6.6	8.0	397.4	5/6	白色精良	呈淡濃青色,透明釉	ロクロ成形,貫付露胎,内外圏線・梅・折枝竹・二重圏線,高台側面文,高台内,二重圏線内,二重内に唐草文,一重圏線内竹井	高台内型銘其屋肥前系,19C前半
300	1号不明遺構		陶器	碗	11.2	4.0	4.7	119.7	5/6	灰色精良	外鉄釉黒色,内面釉	ロクロ成形,貫付露胎	産地不明
301	1号不明遺構		陶器	片口鉢	10.0	5.9	5.5	140.2	4/6	灰白色,やや精良	鉄釉	ロクロ成形,刷出高台,高台露胎	京焼系か
302	1号不明遺構		陶器	急須	6.1	5.8	6.6	127.1	5/6	灰色精良	金泥注口端部・上面・外側	ロクロ成形,成型成形,注口取付,蓋七,38,上面亀外側「寶」	底外布目痕,産地・時期不明
303	1号不明遺構		土製品	ミニチュア品47	短3.3	1.1	6.6			にぶい橙色,密,赤白	外緑色釉	型成形,曲・背に孔2	産地・時期不明

青磁・瑠璃釉　　磁器染付

陶器（1）

図版２

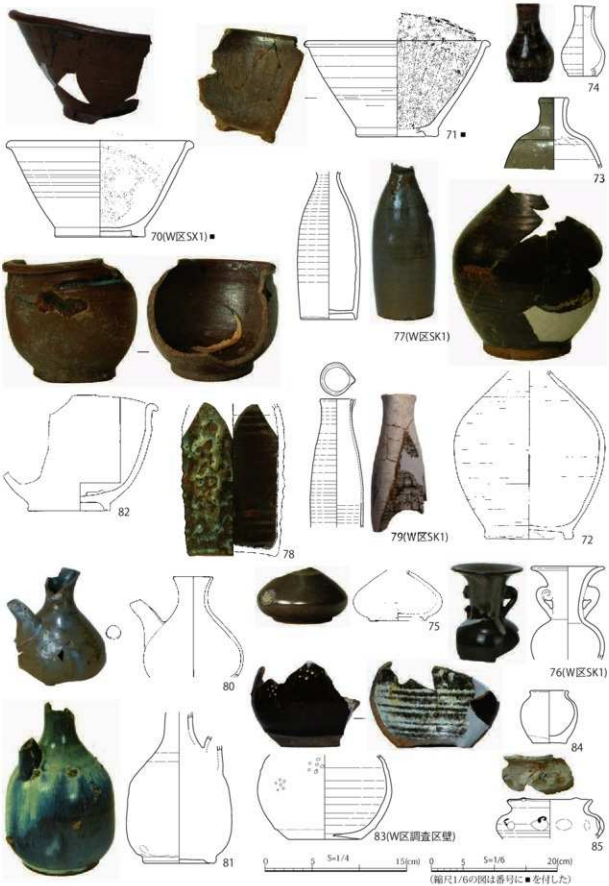
陶器（2）

（縮尺1/6の図は番号に■を付した）

陶器（3）

図版４

陶器（4）

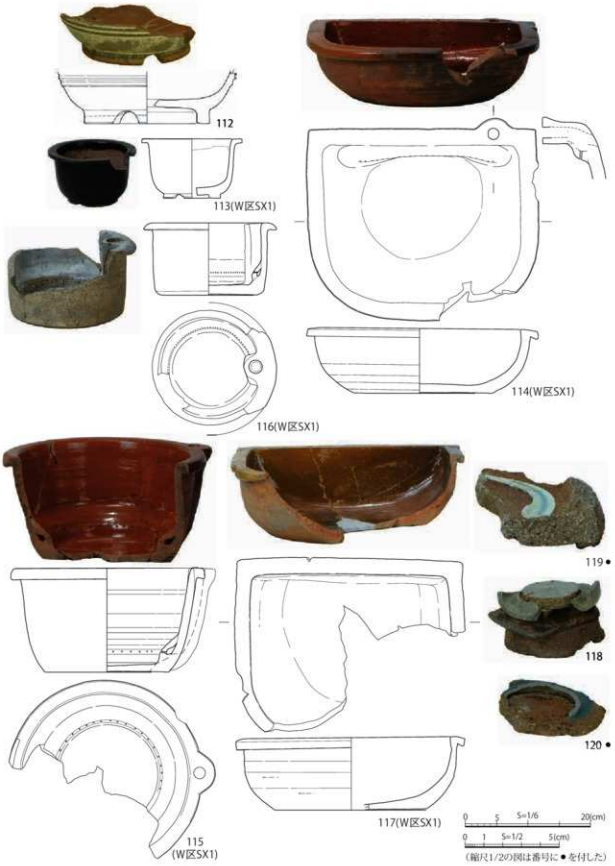

71 ■
74
73
70(W区SX1) ■
77(W区SK1)
82
78
79(W区SK1)
72
75
76(W区SK1)
80
84
81
83(W区調査区壁)
85
0 5 S=1/4 15(cm)
0 5 S=1/6 20(cm)
(縮尺1/6の図は番号に ■ を付した)

陶器（5）

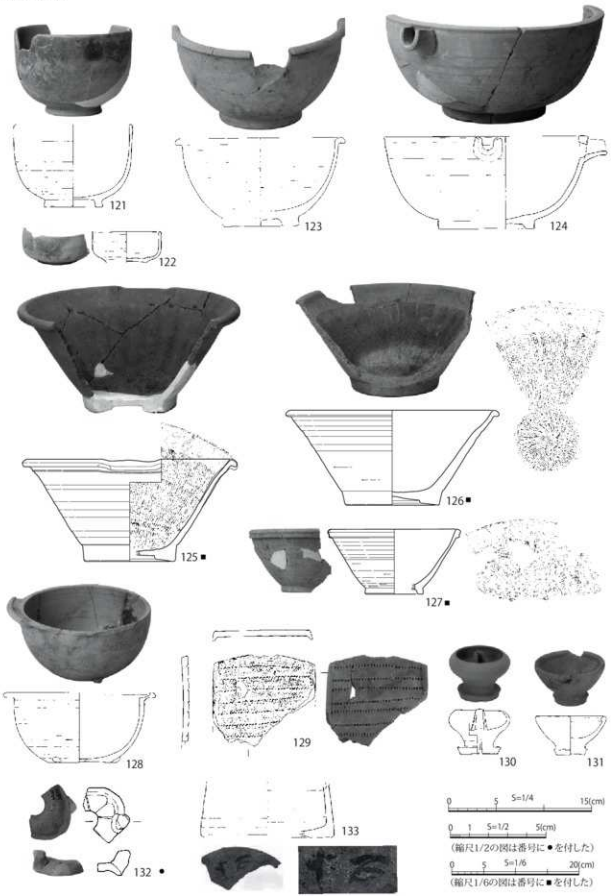
86
87
88(W区SK1)
89(W区SK1)
90(W区SK4)
91
92
93
94
95
96(W区SX1)
97
98(W区SX1)
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
0
5
S=1/4
15(cm)

図版6

陶器（6）

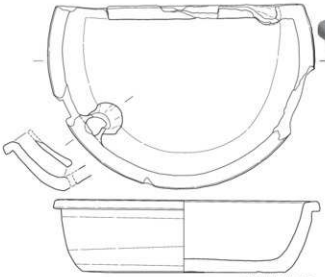

112
113(W区SX1)
114(W区SX1)
116(W区SX1)
119●
118
120●
115
(W区SX1)
117(W区SX1)
0 5 S=1/6 20(cm)
0 1 S=1/2 5(cm)
(縮尺1/2の図は番号に●を付した)

素焼（1）

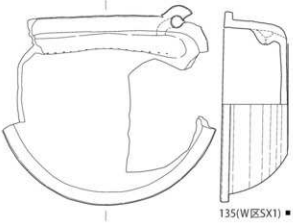

121
122
123
124
125■
126■
127■
128
129
130
131
132●
133
0 5 S=1/4 15(cm)
0 1 S=1/2 5(cm)
（縮尺1/2の図は番号に●を付した）
0 5 S=1/6 20(cm)
（縮尺1/6の図は番号に■を付した）

図版8

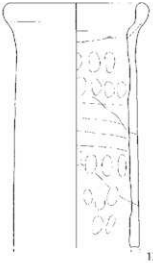
素焼（2）



134(W区SX1)■



135(W区SX1)■



136

窯道具（1）

138(W区SX1)

137●

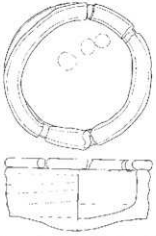
0 5 S=1/4 15(cm)

0 1 S=1/2 5(cm)

（縮尺1/2の図は番号に●を付した）

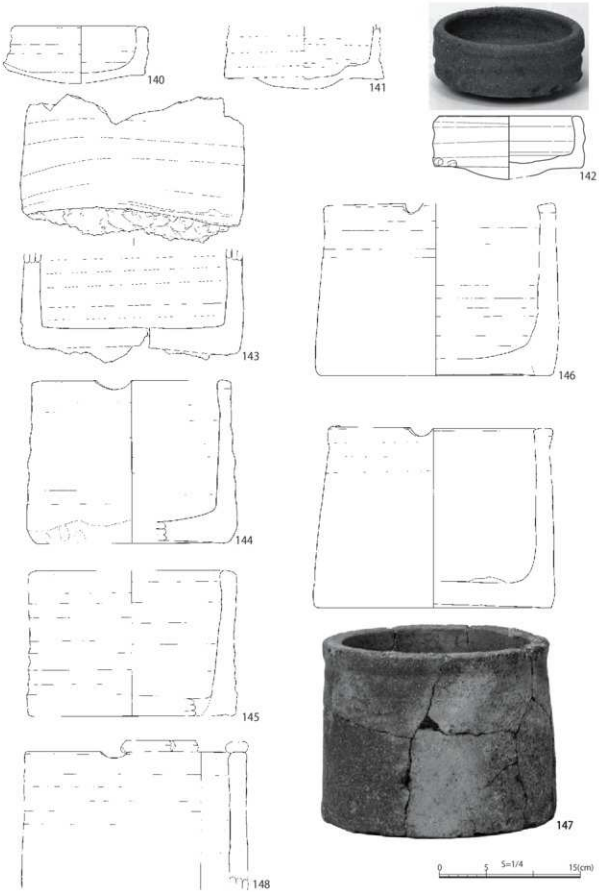
0 5 S=1/6 20(cm)

（縮尺1/6の図は番号に■を付した）



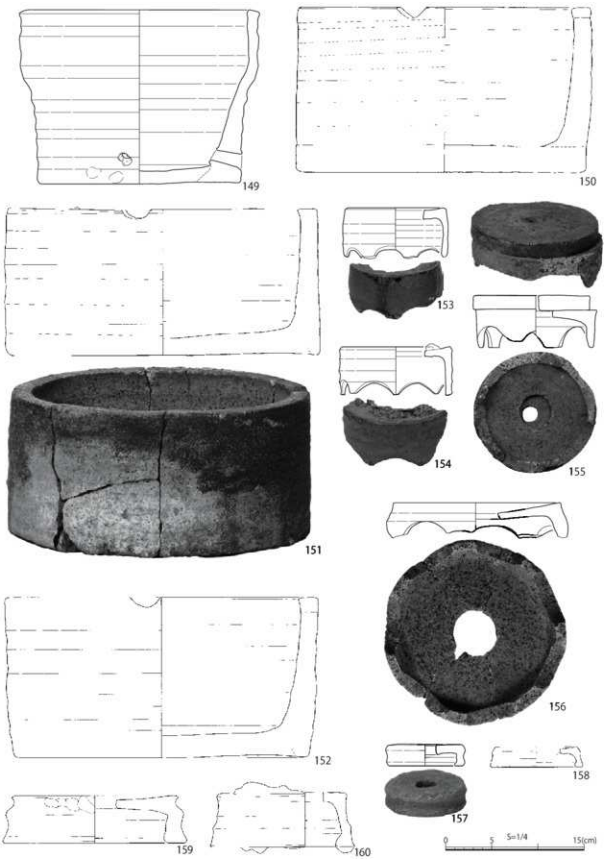
139

窯道具（2）

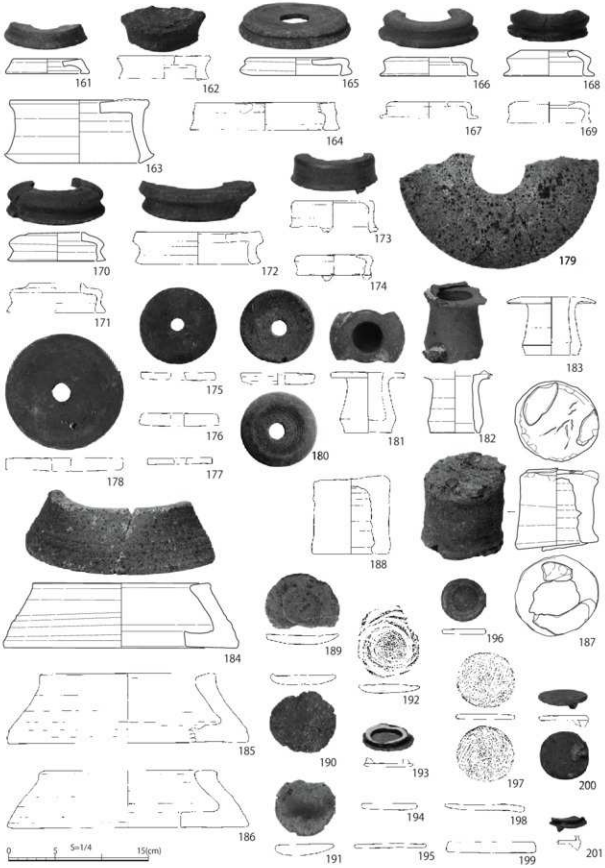


図版 10

窯道具（3）

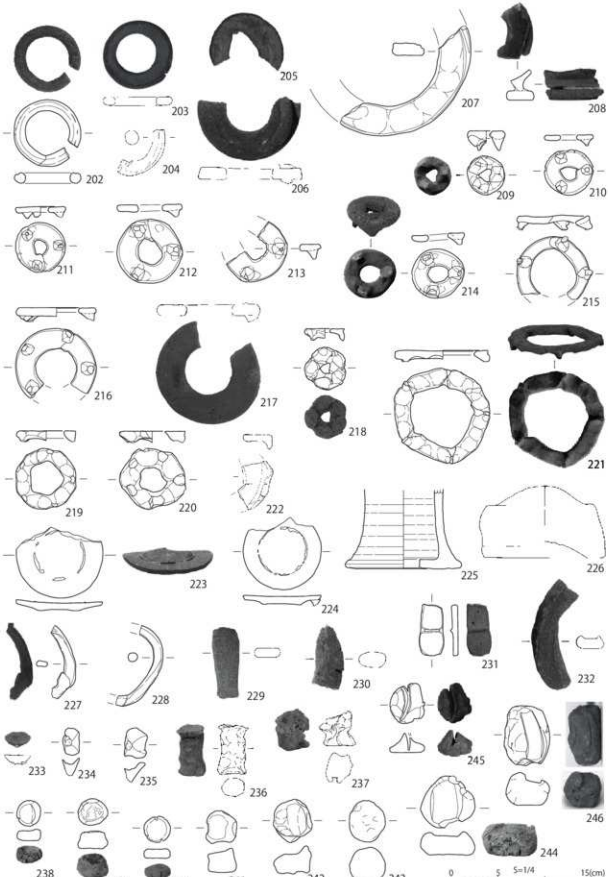


窯道具（4）

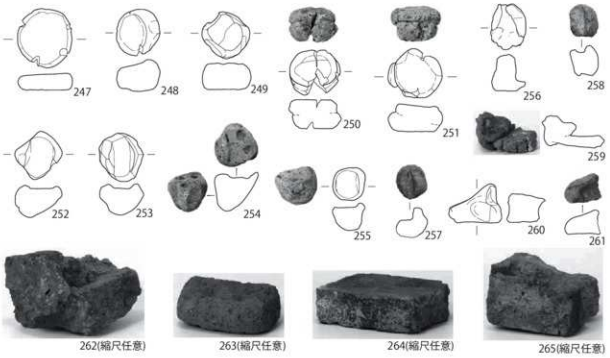

161
162
165
166
168
163
164
167
169
170
172
173
174
179
171
175
176
178
177
180
181
182
183
188
184
189
196
187
185
190
192
193
197
200
186
191
194
195
198
199
201
0
5
S=1/4
15(cm)

図版 12

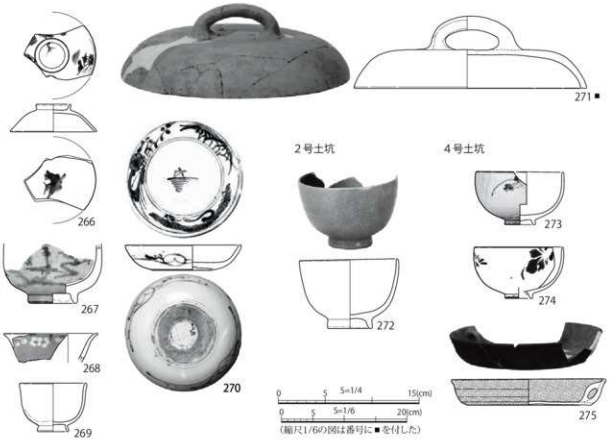
窯道具（5）


202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
0
5
S=1/4
15(cm)

窯道具（6）



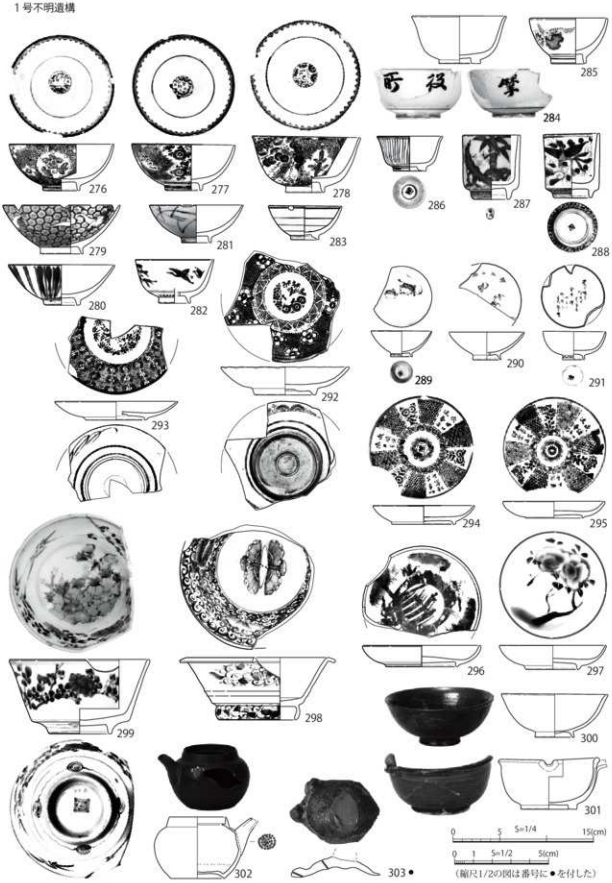
W区出土遺物（1）



図版 14

W区出土遺物（2）

1号不明遺構



（縮尺1/2の図は番号に●を付した）

調査区全景（上が東）

WI区全景（東から）

図版 16

W区１号土坑土層堆積状況（東から）

W区２号土坑遺物出土状況（北東から）

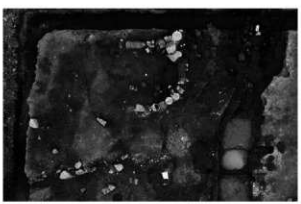
W区３～５号土坑全景（北東から）

W区１号不明遺構全景（西から）

E区窯跡・溝跡全景（南から）

1号窯跡全景（北から）

2号窯跡上層遺物出土状況（南から）



2号窯跡上層全景（上が東）

2号窯跡下層全景（南から）

溝跡東部上層検出状況（西から）

溝跡土層堆積状況（西から）

溝跡西部全景（西から）

報告書抄録

ふりがな	まつしろじょうかまちあと（4）・だいかんちょうかまあと
書　　名	松代城下町跡（4）・代官町窯跡
副 書 名	松代町代官町分譲地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財
シリーズ番号	第165集
編 著 者 名	飯島哲也　田中暁穂
編 集 機 関	長野市教育委員会長野市埋蔵文化財センター
所　在　地	〒381-2212　長野県長野市小島田町1414番地　TEL026-284-0004・FAX026-284-0106
発行年月日	2022（令和4）年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
松代城下町跡（まつしろじょうかまちあと）	長野市松代町松代（ながのしまつしろまちまつしろ）	20201	F－033	36°33′21″	138°11′58″	20190716～20190920	598㎡	宅地造成
代官町窯跡（だいかんちょうかまあと）	字代官町1467番1外（あざだいかんちょう／ほか）		F－042					

所収遺跡名（ふりがな）	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
松代城下町跡（まつしろじょうかまちあと）	集落遺跡	近世後期	土坑1基	陶磁器
		幕末～近代	土坑4基、性格不明遺構1基、小穴1基	陶磁器（製品・窯道具）、土器、石製品（砥石）、金属製品（銭貨）、木製品（漆器・曲物・下駄・箸）、瓦
代官町窯跡（だいかんちょうかまあと）	生産遺跡	幕末～近代	陶磁器窯跡2基、溝跡1条	陶磁器（製品・窯道具）、土器、金属製品（卸し金）、瓦

要　　約

松代城下町跡は松代藩の城下町の範囲であり、調査地は主に中級藩士が集住する代官町に所在する。調査では江戸後期から近代の土坑や水道施設、幕末以降の代官町窯跡が確認された。代官町窯跡は松代系の窯跡としては初の調査となる。成果としては、窯の立地が特殊であることを補完するための造成や水利施設などが配置されたことが判明した。製品については小型の製品や、磁器染付などが出土し、従来の松代系の製品構成とは異なる。製品には主に瀬戸系の影響を看取できるが、独自の文様も保持していた。窯道具には瀬戸系・関西系の影響が窺える。これらの特徴は、開窯後まもなく窯を継承した加藤房造が瀬戸系の陶工であると伝承されること、該期に北信地域に流入していた京信楽系技術、加藤が師事していたとされる、須坂藩に招来されていた関西系の陶工吉向行阿による影響と考えられる。

長野市の埋蔵文化財　第165集

松代城下町跡（4）・代官町窯跡

令和4年3月31日発行

発行　長野市教育委員会
編集　長野市埋蔵文化財センター
印刷　大日本法令印刷株式会社